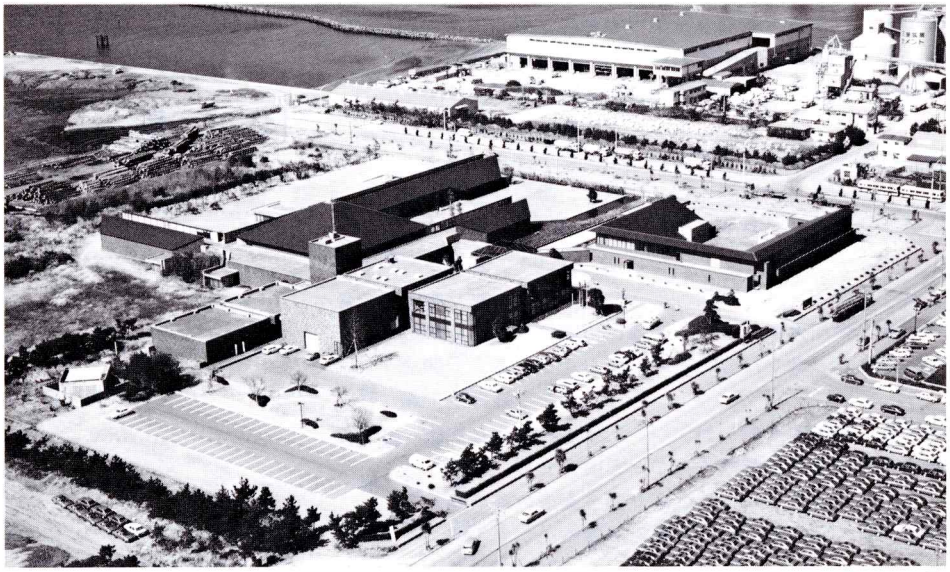
みる・かたる・つくる

千葉県立美術館年報

昭和59年度

CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART



千葉県立美術館全景

目　次

ごあいさつ…… 1
沿　　革…… 2
管理運営…… 3
　機　　構…… 4
　施　　設…… 11
事業報告…… 15
　常設展…… 16
　特別展…… 20
　企画展…… 24
　千葉県芸術祭…… 30
　団体展…… 32
　教育・普及…… 38
　昭和59年度事業一覧…… 48
　利用状況…… 50
　日誌抄…… 51
　作品貸出一覧…… 51
関係法令等…… 53
昭和60年度展覧会事業計画…… 55

ごあいさつ

このたび,昭和59年度の千葉県立美術館の経営実績を主体にした年報を刊行し，関係者の皆様にお届けすることになりました。

本館は，これまで〝みる・かたる・つくる〟をモットーにして美の大衆化に努めてまいりましたが，開館満10周年を迎え，地域性をふまえながら，さらに国際性へと視野を広げていくべく，まず，「みる」活動として特別展「ミレー，コロー,クールベ展」を開催しました。また，企画展では「カナダ・アルバータ州現代美術展」を開催し，国際交流と親善を深めました。

一方，これまでと同様，地域に根ざした美術館として，千葉県ゆかりの作家速水御舟の特別展「速水御舟とその時代」と〝房総の美術家シリーズ－14－〟として企画展「都鳥英喜展」を開催しました。

また，本年度は千葉市内に建設を進めている「青葉の森公園」内に県民に親しみやすい彫刻を設置するため、全国的規模において作品公募を行い，その入選作品及び招待作家の作品を展覧する「第1回現代日本具象彫刻展」を千葉県・千葉県教育委員会の主催により開催しました。

なお,「青葉の森公園」内に設置する招待作家の作品4点を本館の野外展示場に仮設置し，一般公開しました。

その他，「収蔵作品展」「千葉県移動美術館」もさらに充実すべく努力しました。

また，「かたる」「つくる」活動として，美術の見方，考え方を深めるための美術館夏季大学や美術講演会，美術を語る会等を開催するとともに作品制作の喜びや楽しみを味わう各種実技講座を開設しました。

一方，資料の収集については，地域美術館・近代美術館として，調査，研究と相まって，千葉県美術品取得基金等を活用して収蔵作品の充実を図りました。

このように，本館の活動も軌道に乗り，さらに充実期を迎えようとしております。

今後も反省を加え，より充実した美の広場としての活動を推進していく所存ですので，関係諸機関及び各団体並びに県民の皆様の一層の御指導と御支援をお願いする次第であります。

昭和60年6月

千葉県立美術館長

平　野　　馨

沿　革

概　要

千葉県立美術館は，昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基き，建設計画をすすめ，昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備班を置き，開館事務にあたった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し，4月1日千葉県立美術館として機関設置し，10月23日開館式を挙げ，一般公開を始めた。同51年2月第2期工事の管理棟が完成した。

なお，千葉県の第5次総合5ヶ年計画により，第3期工事として，県民アトリエの建設に昭和54年3月27日着工，同55年2月29日竣工し，ここに当初建設計画は完了した。

運営方針

- 県民のための美術館として，明るく親しまれる美術館。
- 学校教育・社会教育との関連から，教育普及活動を重視し，楽しく学べる美術館。
- 県民と美術家との交流の広場とし，相互の理解と向上を図る美術館。
- 房総の地にかかわりのある作家の作品と，関係資料の収集と研究をめざす美術館。
- 美の広場として，広く美術資料・情報等を収集し，みる・かたる・つくる活動を総合的に展開する美術館。

昭和44年12月9日　第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる（委員15名）
昭和45年1月19日　県立美術館建設の請願書が2月県議会で採択される
昭和45年7月24日　建設地として千葉公園に内定する
昭和45年11月12日　第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる（委員10名）
昭和46年3月31日　千葉公園内の美術館基本構想なる
昭和46年6月24日　体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる
代案として千葉市中央港埋立地が提示される
昭和47年1月5日　建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し，使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する
昭和47年3月31日　基本設計完了する（株式会社大高建築設計事務所）
昭和47年7月31日　展示棟　第1期工事の実施設計完了する。
昭和47年10月13日　展示棟建築工事請負契約議案可決される
昭和47年12月10日　展示棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所，施工・株式会社竹中工務店）
昭和48年4月1日　文化課に美術館準備班を置き，開館事務にあたる。
昭和48年11月30日　管理棟（第2期工事）の実施計画完了する
昭和49年3月31日　展示棟建築工事竣工
昭和49年4月1日　千葉県立美術館発足する職員14名
昭和49年10月23日　開館記念式典を行なう
昭和49年10月24日　開館記念展「千葉県美術展覧会」を開催　一般公開を始める
昭和50年3月13日　管理棟建築工事請負契約議案可決される
昭和50年3月15日　管理棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所，施工・株式会社竹中工務店）
昭和51年2月15日　管理棟建築工事竣工
昭和51年3月2日　管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する
昭和51年6月7日　寄付によって，正面玄関に植栽を行なう
昭和52年3月12日　彫刻の屋外展示をはじめる
昭和52年4月10日　展示棟の一室に美術普及室を開設する
昭和53年1月18日　外構工事として，駐車場が拡張され，101台の収容となる
昭和53年2月21日　美術普及棟の準備会が発足する
昭和53年10月17日　債務負担行為によって美術普及棟建築予算がつく
昭和53年11月18日　浅井忠像　完成除幕式
昭和53年11月30日　美術普及棟実施設計完了する
昭和54年1月8日　美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する
昭和54年3月5日　県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される
昭和54年3月27日　県民アトリエ棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所，施工・株式会社竹中工務店）
昭和55年2月29日　県民アトリエ棟建築工事竣工
昭和55年3月16日　県民アトリエ棟完成記念講演会
昭和55年9月9日　県民アトリエ棟情報資料室を開設する
昭和58年7月29日　美術普及コーナーを開設する
昭和58年11月12日　開館10周年と県展開催35周年を記念した記念碑を建立する
昭和58年12月31日　屋外展示場の園路及び彫像台座工事の一部が完成する

管理運営

昭和49年10月に開館以来，10年余を経過し，その間，館の運営方針に基づき，美の広場として〝みる・かたる・つくる〟活動を積極的に展開し，県民のための美術館として重要な役割を果たしてきた。

また，県教育委員会は，教育施策の四本柱の一つに「心豊かなうるおいのある生活と香り高い県民文化の創造」を掲げ，芸術文化の振興を図っている。

このようにして，県民の芸術文化に対する関心も年々高まっており，更に利用の拡大に努めていきたい。

野外展示場に昭和59年4月に北村西望作「天女の舞」が設置されたのに続いて，60年3月，長谷川昂作「葉かげ」，神野義衛作「とこしえに」，大須賀力作「杜の詩」が設置され，青葉の森公園の「彫刻の広場」に移されるまで展示されることになった。

県民アトリエ棟では，つくる喜びと楽しみを味わえる創造の拠点として各種の実技講座等の事業を展開したほか，「美術館夏季大学」，「美術講演会」，「美術を語る会」等によって美術について理解を深めるなど，県民に潤いのある生活を与える場として活動してきた。

一方，資料収集については，近・現代の美術資料を中心とする美術館として，また，地域美術館としてその収集にあたり，津田信夫，石井林響等の作品を収集したほか，美術品取得基金により浅井忠作品の購入を行った。

今後も更に調査研究を重ね，本館事業をより活発にするために努力をし，県民の要望に応えるべく，美の広場づくりの確立を図っていきたい。

機　　構

組織および事務分掌（60.3.31現在）

館　長

副館長

庶務課(6)　主査１，副主査１，主任主事２，主任運転手１，主任用務員１

- 公文書の授受発送及び保存に関すること。
- 職員の人事・服務に関すること。
- 職員の給与・旅費に関すること。
- 予算の編成・執行に関すること。
- 物品の出納，使用料等の徴収に関すること。
- その他庶務会計全般に関すること。
- 館内施設設備の管理に関すること。
- 館外施設設備の管理に関すること。
- 防犯・防災に関すること。
- 警備等総合委託業務に関すること。
- 駐車場，利用者等の管理に関すること。
- その他管理全般に関すること。

学芸課(14)　課長１，主査３，副主査１，学芸員７，主事１，非常勤嘱託１

- 美術作品の調査収集に関すること。
- 美術作品と作家の調査研究に関すること。
- 資料の収集と購入の実務に関すること。
- 美術資料の保存管理に関すること。
- 美術資料の整理分類に関すること。
- 美術図書の収集と管理に関すること。
- 資料の公開利用に関すること。
- 展示企画全般に関すること。
- 展示室の利用調整に関すること。
- 展示備品の整備と管理に関すること。
- 移動美術館の企画運営に関すること。
- 広報普及の企画編集に関すること。
- 展覧会のポスター，図録等に関すること。
- 講演会，実技講座等の企画運営に関すること。
- 友の会の指導に関すること。

千葉県立美術館友の会（葉美会）

館の活動に提携し，展覧会の鑑賞・講演会・講習会・美の旅・会報の発行などを行なっている。個人でいつでもだれでも入会できる。

千葉県立美術館協議会(10)

館運営の円滑化を図るため，館長の諮問機関として置かれた。学校教育，社会教育の関係者並びに学識経験者の中から10名を県教育委員会が任命している。

千葉県立美術館美術資料受入委員会

本館に受け入れる美術資料の適否について検討するため，館職員により構成している。なお貸し出しについてもこの委員会で検討している。

千葉県立美術館研究員(10)

本館において，美術館資料の収集・保管・展示のために必要な調査研究に関する協力を得ることを目的として置かれた。研究員は学識経経者のうちから10名以内を館長が委嘱している。

千葉県美術館資料審査委員会(15)

収集する美術資料の選考及び評価を適正かつ円滑に行なうため置かれた。委員は部門（日本画，洋画，彫刻，工芸，書等）を考慮し，15名を県教育長が委嘱している。

職　員

館　　長　平　野　　馨
副 館 長　糸　賀　茂　夫

庶 務 課

主　　査　林　　康　高
副 主 査　忍　足　正　雄
主任主事　菅　井　冨美子
〃　　一　杉　　徹
主任運転手　篠　原　恒　雄
主任用務員　長　島　則　子

学 芸 課

課　　長　中　村　　哲
主　　査　中　地　昭　男
〃　　森　田　　保
〃　　鈴　木　喜久夫
副 主 査　加　曽　利　和　夫
学 芸 員　米　田　耕　司
〃　　大久保　　守
〃　　藤　川　正　司
〃　　前　川　公　秀
主　　事　武　内　喜美子
学 芸 員　金　田　雅　成
〃　　小　泉　幸　代
〃　　内　野　　泉
非常勤嘱託　足　立　　堯

千葉県立美術館協議会委員

氏　　名	役　　職
石母田　権兵衛	千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会長
遠　藤　健　郎	画　　家
国　松　実枝子	船橋市教育委員
郡　司　幹　雄	千葉県文化財保護審議会副会長
笹　岡　了　一	千葉県美術会会長
鈴　木　民　三	千葉県立美術館友の会会長
高　橋　恒　三	和洋女子大学常務理事
戸　田　禎　祐	東京大学教授
野　口　貞　子	千葉市婦人グループ連絡会役員
牧　田　　茂	白梅学園短期大学教授

（五十音順，敬称略）

千葉県立美術館研究員

氏　名	役　職	氏　名	役　職
池田伊予	千葉市立越智中学校教諭	高木　正	流山市立西初石小学校教頭
石倉総子	千葉市立こてはし台中学校教諭	田辺　宏	勝浦市立興津中学校教諭
佐藤　修	佐原市立佐原中学校教諭	南　隆一	横芝町立横芝中学校教諭
実藤充子	千葉県立美術館友の会役員	村田哲朗	東京芸術大学美術学部教育資料編纂室
鈴木　忠	千葉県立中央図書館司書	綿貫啓一	船橋市企画部情報管理課

（五十音順，敬称略）

昭和59年度予算概要

（単位：千円）

事業名		予算額	事業概要
運営費	展示事業費	18,024	特別展2事業　14,954 企画展3事業　2,580 常設収蔵作品展事業　490
	普及事業費	2,412	実技講座・講演会の実施等 館報・年報・事業案内等の発行
	調査研究費	480	資料調査，研究員会議等
	維持管理費	104,109	施設管理，設備・機械保守委託 その他運営費
施設整備費	施設整備費	32,500	資　料　一般　30,000 図　書 展示用備品 アトリエ備品 その他視聴覚備品等
	工事費	1,200	ブラインド，ジュータン改修工事
合　計		158,725,000円	

注）○職員の人件費は含まず。
　　○別に資料購入のための基金（2億円）あり。

収蔵資料（昭和60年３月31日現在）

収蔵別内訳

種別＼区分	保管換	購　入	寄　附	合　計
日　本　画	23	33	65	121
洋　　画	35	187	276	498
彫　　塑	10	31	15	56
工　　芸	9	44	30	83
書	14	14	35	63
版　　画	3	85	40	128
合　　計	94	394	461	949
研　究　資　料	73	127	1,212	1,412
教　育　資　料	116	0	239	355
合　　計	189	127	1,451	1,767

昭和59年度新収蔵作品一覧

日　本　画

番号	作　家　名	作　品　名	制作年	材　質　・　形　状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	田中路人	豊漁	昭和58	紙・着彩・額	238.0×356.0	寄附
2	若木山	三篤刈る信濃の女	昭和30	紙・着彩・2曲1隻	202.0×180.0	購入
3	石井林響	梅花書屋		絹・淡彩・軸	140.2× 50.5	〃
4	〃	唐美人		絹・淡彩・軸	121.0× 41.6	〃
5	〃	夜道を駆ける人		絹・着彩・軸	121.8× 49.7	〃
6	時田直善	魚紋	昭和56	紙・着彩・額	173.0×217.0	〃
7	若木山	島ノ椿	昭和38	紙・着彩・額	173.0×218.0	寄附
8	〃	潭	昭和40	紙・着彩・額	173.0×218.0	〃
9	石井林響	木華開耶姫		絹・着彩・軸	115.0× 60.0	〃
10	時田直善	夕凪	昭和29	紙・着彩・額	230.0×230.0	〃
11	浅井忠	人物風俗図	明35~明40	紙・着彩・軸	136.6× 30.0	〃
12	〃	草を摘む女たち		紙・着彩・額	23.5× 36.8	〃
13	〃	カルタとりの女児		紙・着彩・額	23.0× 35.5	〃
14	〃	騎馬武者群像		紙・着彩・額	89.8× 44.7	〃

洋　　画

番号	作　家　名	作　品　名	制作年	材　質　・　形　状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	大下藤次郎	紫陽花	明治37	紙・水彩・額	21.0× 33.0	購入
2	〃	青梅	明治37	紙・水彩・額	21.0× 33.0	〃
3	〃	久々子湖	明治44	紙・水彩・額	35.0× 24.5	〃
4	三宅克己	小諸城址	明治33	紙・水彩・額	24.5× 34.5	〃
5	荒谷直之介	若い裸婦たち	昭和51	キャンバス・水彩・額	97.0×130.3	〃
6	浅井忠	パリ公園	明33~明35	紙・鉛筆淡彩・額	17.0× 22.5	寄附
7	牧野克次	松林		紙・水彩・額	31.0× 45.0	〃
8	都鳥英喜	舟小屋	昭和３	キャンバス・油彩・額	96.0×130.4	〃
9	〃	滞船	昭和８	キャンバス・油彩・額	109.5×146.0	〃
10	〃	村の道	昭和17	キャンバス・油彩・額	115.8× 80.9	〃
11	荒谷直之介	大島風景	大正９	紙・水彩・額	33.4× 45.5	〃
12	〃	白船入港(マラガ)	昭和37	紙・水彩・額	60.8× 80.3	〃
13	〃	那覇の踊り子	昭和42	紙・水彩・額	104.9× 69.0	〃
14	〃	大原女	昭和44	キャンバス・水彩・額	130.3× 97.0	〃

15	浅井　忠	糸をくる女		紙・水彩・額	20.4× 14.0	寄附
16	〃	農家		紙・水彩・額	14.7× 21.0	〃

彫　塑

番号	作家名	作品名	製作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
1	安西順一	秋晴	昭和23	木	124.0× 49.0×35.0	購入
2	堀　豊之	姉妹	昭和59	ブロンズ	71.0×133.0×71.0	〃
3	青木三四郎	憩い	昭和59	石	82.0× 90.0×90.0	〃
4	松本雄治	大母神，天を翔ける	昭和59	ブロンズ・石	70.0× 56.0×33.0	〃

工　芸

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(特に注のないものは高×幅×奥行cm)	受入方法
1	津田信夫	煙草入	大正15頃	鋳金	10.4×19.2×10.0	購入
2	〃	海	昭和2	漆	21.0×24.6×31.0	〃
3	〃	変貌七色	昭和8	鋳金・1対	25.2×18.0×24.0 16.0×13.5×34.0	〃
4	〃	閑鱗上下	昭和16	鋳金	高21.0×径17.4	〃
5	〃	月下妖麗		鋳金	16.2×41.0×15.0	〃
6	〃	水牛		鋳金	9.0×19.0×10.5	〃
7	〃	玉鱗焜爐		鋳金	24.5×38.0×14.0	〃
8	〃	鶴		鋳金・1対	10.8×16.5× 6.0 6.0×14.0× 5.0	〃
9	〃	虎		鋳金・1対	8.0×17.5× 8.5 4.3×15.7× 5.0	〃
10	〃	馬		鋳金	23.0×32.0× 9.5	〃
11	〃	水盤		鋳金	12.0×48.5×27.6	〃
12	〃	雁図花瓶		鋳金	高29.8×径12.5	〃
13	浅井　忠	茶托	明35~明40	陶芸・2点1組	①高 2.8×径12.5 ②高 2.6×径12.6	寄附

書

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	福田襄州	蘇東坡詩	昭和58	紙・墨・額	229.7×52.5	購入
2	浅見喜舟	木戸公之詩		紙・墨・額	140.0×78.5	寄附
3	〃	白楽天詩	昭和29	紙・墨・4曲1隻	各 140.0×34.5	〃
4	〃	晋陶弘景語	昭和30	紙・墨・2曲1隻	各 136.5×79.0	〃
5	〃	無事		紙・墨・2曲1隻	各 134.5×66.5	〃
6	〃	太公有意垂釣…	昭和38	紙・墨・4曲1隻	各 135.0×34.7	〃
7	〃	麟出鳳翔	昭和48	紙・墨・額	134.0×32.5	〃
8	〃	朱存理詩		紙・墨・額	134.3×32.4	〃
9	〃	卜居	昭和55	紙・墨・額	136.5×45.0	〃
10	〃	面壁九年	昭和57	紙・墨・2曲1隻	各 136.0×70.0	〃
11	〃	心田灑掃浄無塵	昭和58	紙・墨・額	133.3×34.0	〃
12	〃	千字文	昭和58	紙・墨・6曲1隻	各 135.8×46.9	〃
13	日下部鳴鶴	不背…		紙・墨・軸	131.0×46.7	〃
14	〃	翠壁…		紙・墨・軸	131.0×46.7	〃
15	〃	素夜…		紙・墨・軸	131.0×46.7	〃
16	〃	幡石…		紙・墨・軸	131.0×46.7	〃
17	〃	楼室…		紙・墨・軸	131.0×46.7	〃
18	〃	自在…		紙・墨・軸	131.0×46.7	〃
19	〃	一夕…		紙・墨・軸	131.0×46.7	〃
20	〃	三別…		紙・墨・軸	131.0×46.7	〃
21	〃	校素…		紙・墨・軸	131.0×46.7	〃

22	浅見喜舟	仰見…		紙・墨・軸	131.0×46.7	寄附
23	〃	坐望…		紙・墨・軸	131.0×46.7	〃
24	〃	終余…		紙・墨・軸	131.0×46.7	〃

版画

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	関主税	信濃路春秋	昭和57	紙・木版・2点1組	各33.5×45.5	購入

研究資料

番号		資料名	数量	受入方法
1	浅井忠資料	鴨川畔	1	寄附
2	〃	物語挿絵1	1	〃
3	〃	物語挿絵2	1	〃
4	〃	物語挿絵3	1	〃
5	〃	物語挿絵4	1	〃
6	〃	物語挿絵5	1	〃
7	〃	大石蔵之助	1	〃
8	〃	合戦ノ図	1	〃
9	〃	鳥籠を持つ女	1	〃
10	〃	子規居士弄丹青図	1	〃
11	〃	沼付近	1	〃
12	〃	葉鶏頭	1	〃
13	〃	にわとり	1	〃
14	〃	牛と少年	1	〃
15	〃	牛と天神（A）	1	〃
16	〃	牛と天神（B）	1	〃
17	〃	山賊（4人）	1	〃
18	〃	山賊（3人）	1	〃
19	〃	子守女	1	〃
20	〃	当世風俗五十番歌合（雲水他）	1	〃
21	〃	当世風俗五十番歌合（ハンター他）	1	〃
22	〃	やまたのおろち退治	1	〃
23	〃	帆船の図	1	〃
24	〃	畑時能図	1組6点	〃
25	〃	戦う騎馬武者図	1	〃
26	〃	陣内武者図	1	〃
27	〃	子守女	1組2点	〃
28	〃	教科書下絵	1組9点	〃
29	〃	印刷物下絵	1	〃
30	〃	下絵「翁と媼」	1組2点	〃
31	〃	下絵「碁をうつ人」	1組2点	〃
32	〃	スケッチ「蛙図，耕作図」	1	〃
33	〃	壺器形図案	1	〃
34	〃	下絵「風景」	1	〃
35	〃	下絵「梅と流水」	1	〃
36	〃	下絵「当世風俗五十番歌合」	1	〃
37	〃	下絵「牛と天神」	1組2点	〃
38	〃	スケッチ「編みもの(表)，縫いもの(裏)」	1	〃
39	〃	スケッチ「船」	1	〃

40	浅井忠資料	欧州時代スクラップ帳	1	寄附
41	浅井忠関係資料	浅井忠先生遺筆羅漢図絵葉書	1組5点	〃
42	〃	その他絵葉書	37件 53点	〃
43	〃	折本	3	〃
44	〃	浅井忠印譜ふくさ	2	〃
45	長三洲他資料	明治文人墨客寄書	1	〃

昭和59年度千葉県美術品取得基金購入資料一覧

番号	作家名	作品名	種別	制作年	材質・技法	寸法(縦×横cm)
1	浅井忠	渓流	洋画	明17	紙・鉛筆淡彩	30.2×22.5
2	〃	曳船通り	〃	明18	紙・ペン	25.0×44.5
3	〃	フォンテンブローの夕景	〃	明34頃	板・油彩	24.0×32.6
4	〃	洋上の夕陽	〃	明35	紙・水彩	24.5×36.0
5	〃	母の肖像	〃	明35～明40	紙・油彩	39.0×32.3
6	〃	松	日本画	明25	紙・墨	136.0×34.0
7	〃	梅	〃	明25	紙・墨	136.0×34.0
8	〃	欧州風景	〃	明35頃	絹・墨	22.5×17.0
9	〃	盗賊	〃	明35～明40	絹・着彩	136.0×34.0
10	〃	祖浅巻物	〃	明35～明40	紙・墨	28.0×640.0
11	〃	当世風俗五十番歌合(2番)	〃	明40	紙・着彩	26.4×17.3
12	〃	当世風俗五十番歌合(7番)	〃	明40	紙・着彩	26.4×17.3
13	〃	当世風俗五十番歌合(15番)	〃	明40	絹・着彩	22.5×17.0
14	〃	当世風俗五十番歌合(28番)	〃	明40	絹・着彩	22.5×17.0
15	浅井忠画・子規句	狂女	〃		絹・着彩	(絵)32.0×20.2 (句)20.5×17.7
16	浅井忠画・子規句	古城	〃		絹・着彩	(絵)33.1×20.7 (句)20.5×18.0
17	浅井忠	籠を背負う女	〃		絹・着彩	27.7×19.0

施　　設

この建物は，幾つかの建設候補地の中から，千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手当時はこの付近は訪れる人も少なく，海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で，空気汚染，降下媒塵そして塩害など，建物に与える悪影響が予測されるために，材料の選択，構法，空調計画等は十分な検討がなされた。以下，主な部分について記す。

外壁の打込みタイル一先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり，炻器質タイルを型枠代にしてコンクリートと一体に打ち込む構法をもちいた。

今回使用したタイルは従来の断面と異なり，コの字型の断面をしており，型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を５cmの厚味にしてある。

施工方法は，内型枠，配筋工程の次のタイルを積み５段毎に型枠のホームタイを通し，2.400 mm程度まで積み上げ単管にて固定する。この2.400 mmの高さは，設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は，縦方向に角材を 400ピッチに通し，横方向に単管を 480ピッチに通し固定したが，施工時は，縦方向に単管を 480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は，1.5m～2.0m/hの速度を目標に行ない，ポンプにて打設可能な程度までスランプを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成してゆく。

タイル面の施工時の汚れ防止には，ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ，表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロが滲み込んでゆき，目地からの滲透水を防げ満足する状態に仕上った。

屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで，勾配屋根に適し，十分にもちこたえられる材料としては耐候性鋼等が考えられたが調査の結果により天然スレートを使用した。

空 調 計 画

計画当初より，良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが，海浜に建つ美術館として，ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは，内部に自動巻取りフィルター，ユニット型フィルター，活性炭フィルター，キャピラリーワッシャーの４種類の空気清浄フィルターを組込んだ外気処理器を通して供給されている。

展示棟はＣＡＶ（定風量型）＋ＶＡＶ(可変風量型)方式により計画されている。わが国の美術館は，平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常に利用者がふえて，発熱負荷の変動が大きくなる。ＶＡＶ方式は，こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は，エネルギーの省力化にも役立つＶＡＶ方式を採用し，収蔵庫は，露点再熱制御方式により二つの条件の異なる収蔵庫を２台の空調機で空調されている。

照 明 計 画

展示壁面は，自然光源と人工光源とにより全体計画されている。

自然光源は展示室の高窓から取り入れられ，外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収のアクリル拡散板を経て壁面に達する。しかし，太陽直射光の鉛直面照度は８時から15時の間で10％の時間が80.000lx 以上，30％の時間が50.000lx以上，50％の時間が25.000lx（平均）以上，90％の時間が 5.000lx以上という測定値がありまた水平面照度にしても50.000lx（薄晴）から5.000lx（曇天）の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は，調光通路内に設けられた２枚の電動スクリーン（これは，計算値により鉛直面照度60.000lx以上の条件のとき必要な枚数で，それぞれ異なった透過率を有する布を使用した）にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による透過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果，クロスは白地のポリエステル（透過率53.6％）と黒地のジョーゼット（透過率35％）の２枚を採用した。ここで留意すべき点は，クロスの遮光性能を良くするために，厚地の布や，コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は，視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては，蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは，演色性を高めるためである。

第１，２展示室は，すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は，最高200lx に押えてある。

固定ケースは基準照度を180lx に設定した。照明方法は，全面アルミルーバーの天井ふところに蛍光灯を２本並列させ，その間に白熱灯２個を配置した。

【設計監理者】

建築：大高建築設計事務所

構造：木村俊彦構造設計事務所
設備：科学応用冷暖研究所
備品：大高建築設計事務所

【施工者】

建築：(株)竹中工務店
設備：空調＝東洋熱工業(株)，衛生＝第一管工事(株)，
電気＝関東電気工事(株)
備品：天童木工，山口木材，佐々木ブラインド

【設計期間】

基本設計：昭和46年11月～昭和47年１月
実施設計：1期展示棟＝昭和47年7月～昭和48年１月
2期管理棟＝昭和48年7月～昭和48年11月
3期県民アトリエ棟＝昭和53年9月～
昭和54年11月

【施工期間】

１期展示棟：昭和48年４月～昭和49年３月
２期管理棟：昭和50年４月～昭和51年２月
３期県民アトリエ：昭和54年３月～昭和55年２月

【階　数】

地下１階，地上２階，塔屋１階建

【高　さ】

基礎底まで：ＧＬ－5,00m，最高軒高ＧＬ＋9.33，
最高高さ：ＧＬ＋15.20m

【都市計画地域指定】

用途地域：準工業地域

【規模・面積】

敷地面積：33,057.87㎡，建築面積：7,641.9㎡，建ぺい率：23.11％，延床面積：8,970.85㎡，展示棟＝5,194.59㎡，管理棟＝2,274.60㎡，県民アトリエ棟＝1,501.66㎡，駐車台数：100台

【構　造】

主体構造：鉄筋コンクリート造（プレストレスト導入），屋根：鉄骨造／主鋼材の種類：Ｈ型，山型，平鋼＝ＳＳ41および高張力鋼，ＰＣ鋼棒／コンクリートの種類：Ａ種・普通コンクリート（基礎・地中梁・１階スラブ）Fc＝210kg/㎠，Ｂ種・軽量コンクリート（梁・スラブ用・地上部）Fc＝300kg/㎠，Ｃ種・軽量コンクリート（地上部躯体でＡ，Ｂ以外の梁・壁など）Fc＝240kg／㎠

【外部仕上】

屋根：勾配屋根＝アスファルトルーフィング・コロシート，天然スレート３枚葺，陸屋根＝アスファルト防水，押えコンクリート，豆砂利打込み
外壁：炻器質タイル（先積ブリック打込工法）一部コンクリート打放しおよび砺り仕上げに撥水剤塗布
開口部：昭和鋼機(株)オーダーメイド自然発色サッシュ，一部型鋼グラファイト処理サッシュ，旭硝子スーパーサンゴールド

【内部仕上げ】

玄関ホール・ロビー・第７展示室：床・巾木＝自然石（北木島御影）円盤摺および本磨，壁＝コンクリート砕り仕上げ，プラスター中塗下地塗装仕上げ，天井＝岩綿吸音板　天井高＝2,300　4,200～13,500
展示室：床＝ビニールホモジニアスタイル，壁＝石綿珪酸カルシウム，板下地クロス張り，塗装仕上げ天井＝岩綿吸音板，塗装仕上げ　天井高＝3,600　3,240　4,500～6,100
事務室：床＝ビニールホモジニアスタイルおよびビニールアスベストタイル，壁＝プラスター中塗下地塗装仕上げ，天井＝岩綿吸音板塗装仕上げ，天井高3,400
収蔵庫：床＝フローリングブロック，壁・天井＝米杉　天井高＝3.400 館長・副館長室・応接室：＝じゅうたん，壁＝突板練付け，天井＝岩綿吸音板　天井高＝2,600
講堂：床＝置敷カーペット，一部マコレフローリング，壁＝マコレ練付け，及びクロス張り，天井＝クロス張り
ホール：床＝ビニールホモジニアスタイル
廊下：壁＝プラスター中塗下地塗装仕上げ
情報資料室：天井岩綿吸音板
事務室：床＝ビニールアスベストタイル，壁＝プラスター中塗下地塗装仕上げ，天井＝軟質石綿板
第１・第２アトリエ：床＝ビニールアスベストタイル，壁＝コンクリート打放シ下地補修の上塗装仕上げ，天井＝軟質石綿板
研修室：床＝ビニールアスベストタイル，壁＝クロス張り，天井＝岩綿吸音板
和室：床＝玄晶石水磨き，タタミ，檜家甲板，壁＝京じゅらく塗，天井：杉柾ベニヤ目透シ，竿縁天井

【昇降機設備】

荷物用エレベーター（三菱エレベーター）：制御方式＝交流２段速度歯車式，セレクティブコレクティブ（DWA）Ｆ操作方式，規模：容量3,000kg，カゴ内法＝3.000mm×3,000mm×3,000mm，速度＝30ｍ/min，戸閉型式＝電動式２板戸上下開き

【空調設備】

空調方式：展示棟＝ＣＡＶ(定風量型)＋ＶＡＶ（可変風量型）方式；県民アトリエ棟＝各室ハンドリング方式，管理棟＝ＶＡＶ方式，保管庫＝露点再熱制御方式
熱源：空気熱源スクリュー熱回収ヒートポンプ方式

【衛生設備】

給水：ポンプ圧送方式，引込み管径75mm
排水：汚水・雑排水合流方式系統（管径300），雨水系統（管径300）別，公設本管へ放流

【電気設備】

受電方式：交流　３相３線式6,000Ｖ　50Hz，電灯幹線＝交流　単相３線式200Ｖ/100Ｖ　50Hz，分岐支流

＝単相２線式200Ｖ/100Ｖ　50Hz，分力幹線および分岐支流＝交流　３相３線式200Ｖ　50Hz，電話交換方式：40回線クロスバー完全共通制御分散中継方式，契約容量；560Kw

【防災設備】

排煙方式：自然排煙，機械排煙（第1,2,7展示室）

消火方式：屋外・屋内消火栓，不燃性ガス消火設備ハロゲン1301（電気室，機械室，収蔵庫1.2）

自家発電：ディーゼル機関直結交流発電機，定格出力100 kVA

【その他の設備】

防犯設備：ITVカメラ設備，防犯警報装置，調光放送設備，火災報知設備

工期及建設経費

第１期工事（展示棟）

工期　昭和47年9 月20日～昭和49年３月31日

工事費　775,967千円

本体工事	425,230千円
電気設備工事	79,663千円
空調設備工事	166,493千円
給排水衛生設備工事	28,995千円
外構工事	67,705千円
ガス工事	7,881千円

第２期工事（管理棟）

工期　昭和50年３月１日～昭和51年２月20日

工事費　453,800千円

本体工事	307,500千円
電気設備工事	30,000千円
空調設備工事	79,000千円
給排水衛生設備工事	19,514千円
外構工事	17,786千円

第３期工事（県民アトリエ）

工期　昭和54年３月22日～昭和55年３月31日

工事費　370,000千円

本体工事	248,758千円
基礎杭打工事	16,542千円
空調設備工事	56,200千円
電気設備工事	35,000千円
給排水衛生設備工事	13,500千円

第４期工事

工期　昭和55年12月25日～昭和56年３月24日

工事費　8,000千円

外構工事	7,800千円
植栽工事	200千円

総工事費　1,607,767千円

展示棟

玄関ホール	102.40	㎡	厨房	36.00	㎡	工作室	31.00	㎡
クローク	91.80	㎡	従業員控室等	17.28	㎡	発電機室	25.00	㎡
倉庫 A	2.70	㎡	食堂ホール	61.20	㎡	電気室	123.20	㎡
〃 B	2.70	㎡	ロビー	335.52	㎡	ポンプ室	76.80	㎡
第一展示室	437.76	㎡	第一休憩室	23.04	㎡	機械室	305.20	㎡
〃 二 〃	400.32	㎡	〃 二 〃	23.04	㎡	高架水槽室	11.46	㎡
〃 三 〃	469.08	㎡	〃 三 〃	23.04	㎡	E．V機械室	27.28	㎡
〃 四 〃	403.20	㎡	便所 A	30.24	㎡	E．V廻り	54.56	㎡
〃 五 〃	824.19	㎡	〃 B	23.76	㎡	ダクトスペース	35.68	㎡
〃 六 〃	330.58	㎡	身障者用便所	7.92	㎡	廊下等	123.48	㎡
〃 七 〃	566.56	㎡	コントロール室	20.16	㎡			
食堂	119.52	㎡	フィルター室	28.92	㎡	**合計 ①**	**5,194.59**	㎡

管理棟

（1階）

第2会議室	22.62	㎡
更衣室	14.83	㎡
医務室	21.18	㎡
文書庫	22.02	㎡
警備員室	43.59	㎡
第一会議室	20.15	㎡
倉庫	7.19	㎡
湯沸室	5.19	㎡
便所	24.54	㎡
宿直室	34.20	㎡
物置	9.92	㎡
用務員室	31.83	㎡
審査室・資料準備室・荷解室	520.68	㎡
消毒室	31.79	㎡
資料倉庫	124.25	㎡
荷解梱包保管室	52.67	㎡
荷扱人控室	21.94	㎡
機械室	51.74	㎡
廊下等	123.52	㎡
小計	1,183.85	㎡

（2階）

館長室	33.27	㎡
副館長室	23.42	㎡
第一応接室	14.67	㎡
第二応接室	14.55	㎡
庶務課室	112.34	㎡
会議室	43.84	㎡
学芸課室	195.32	㎡
学芸相談室	23.91	㎡
研究工作室	216.49	㎡
写真スタジオ	54.30	㎡
器材室	6.74	㎡
暗室	12.19	㎡
第一収蔵庫	184.40	㎡
〃二〃	42.81	㎡
E.V前室	16.39	㎡
便所	21.50	㎡
湯沸室A	3.24	㎡
〃B	6.87	㎡
廊下等	60.94	㎡
ダクトスペース	3.56	㎡
その他		
小計	1,090.75	㎡
合計②	**2,274.60**	㎡

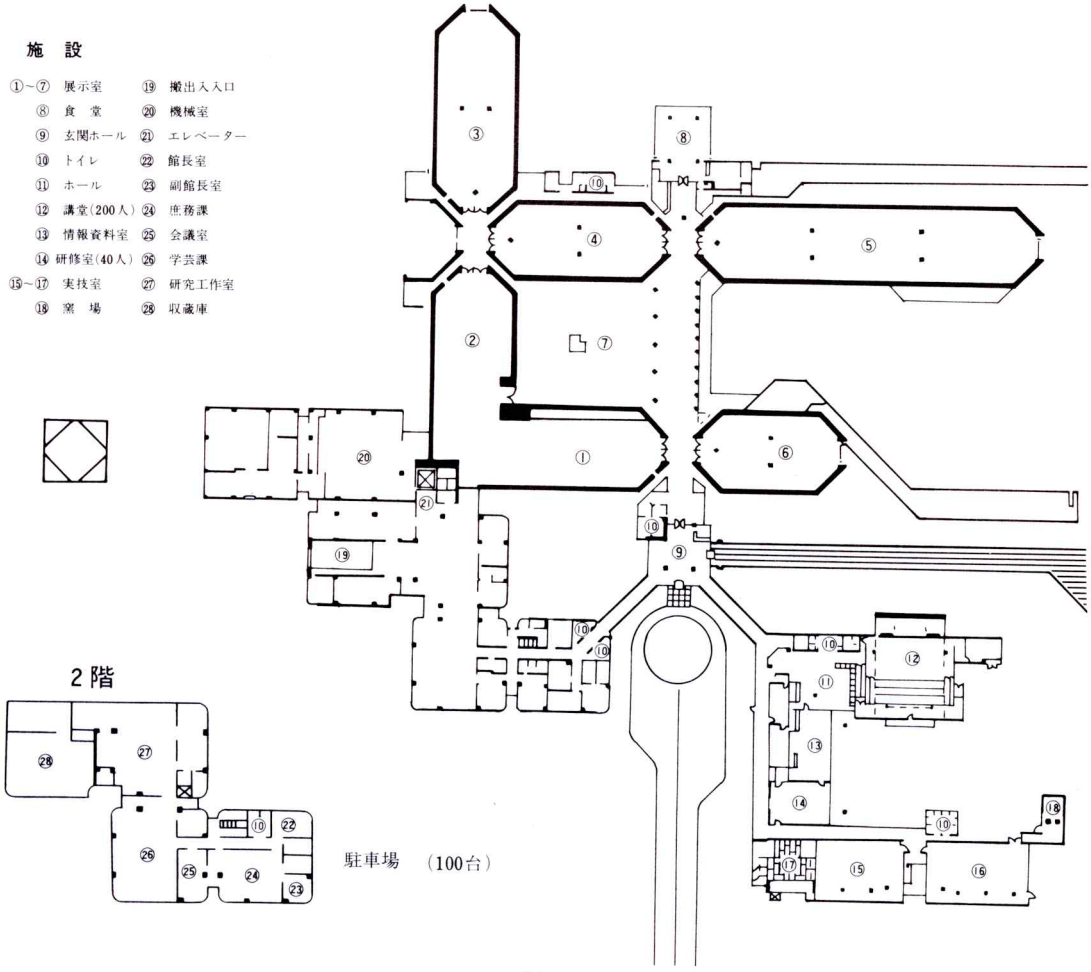
県民アトリエ棟

1F機械室	25.92	㎡
講堂倉庫	8.64	㎡
講堂	259.24	㎡
コントロール室	30.33	㎡
ホール側便所	29.97	㎡
情報資料室	172.77	㎡
同上倉庫	4.70	㎡
事務室	22.76	㎡
研修室	74.70	㎡
同上倉庫	4.23	㎡
第1アトリエ	155.70	㎡
第2アトリエ	184.31	㎡
第3アトリエ	95.47	㎡
アトリエ側便所	20.77	㎡
荷解室	25.65	㎡
窯場	27.17	㎡
同上倉庫	6.66	㎡
ホールその他	352.67	㎡
合計③	**1,501.66**	㎡

総合計 **8,970.85** ㎡
（①＋②＋③）

施設

①～⑦ 展示室
⑧ 食堂
⑨ 玄関ホール
⑩ トイレ
⑪ ホール
⑫ 講堂(200人)
⑬ 情報資料室
⑭ 研修室(40人)
⑮～⑰ 実技室
⑱ 窯場
⑲ 搬出入口
⑳ 機械室
㉑ エレベーター
㉒ 館長室
㉓ 副館長室
㉔ 庶務課
㉕ 会議室
㉖ 学芸課
㉗ 研究工作室
㉘ 収蔵庫



事業報告

1　“みる”事業について

特別展は，秋に「ミレー，コロー，クールベ展」を開催し，ミレー，コロー，クールベを中心にバルビゾン関係作家に焦点を当て，近代絵画の形成に貢献した彼等の多彩な活動をふりかえった。また，新春には，「速水御舟とその時代」を開催し，御舟の活躍した明治後期から昭和初期に焦点を当て，多彩な日本画の展開を回顧するとともに，その流れの中に御舟を位置づけた。

企画展では，房総の美術家シリーズ－14－として，「都鳥英喜展」を開催し，浅井忠の名声にかくれた都鳥英喜に焦点を当て，その作品を一堂に展観することにより，都鳥の画業を回顧した。また，「カナダ・アルバータ州現代美術展」を開催し，カナダ・アルバータ州芸術家協会が審査・選抜した作家達の作品を紹介し，芸術による国際相互理解と親善を深めた。さらに「第１回現代日本具象彫刻展」を開催し，「青葉の森公園」に設置する招待作家の作品や全国公募による入選作品を展示公開した。

千葉県移動美術館は第８回を迎え，佐原市中央公民館と富里中央公民館で開催し，広く県民に美術鑑賞の機会を提供した。

常設収蔵作品展は，三期に分けてそれぞれテーマによって開催した。

2　“かたる”事業について

特別展，企画展に関連させて，「美術講演会」を２回，「美術を語る会」を５回開催した。また，「美術館夏季大学」では，版画と彫刻に焦点を当て，わが国の近・現代の美術史の流れを追った。

3　“つくる”事業について

初心者を対象とした入門講座「日本画入門講座」「洋画入門講座」等，９種14講座，延日数65日と中級者を対象とした研修講座「洋画研修講座」「書芸研修講座」等，４種７講座，延日数30日を開講した。

4　資料収集について

公立美術館として，近代美術と現代美術の概況の正しい理解に資するため，千葉県美術品取得基金等を活用し，美術資料の取得に努め，その充実を図った。

常設展

常設 収蔵作品展（Ⅰ期、Ⅱ期）

これまで本展に展示する機会の少なかった作家の作品及び基金などにより収集した作品を含め，本館収蔵作品を近代美術の流れに沿って展示紹介した。またⅠ期では，房総の作家を紹介するコーナーを設け，原勝郎の作品24点，椿貞雄の作品15点を一堂に展覧し，その業績をふりかえった。

会　　期　Ⅰ期 昭和59年4月1日～8月26日
　　Ⅱ期 昭和59年11月30日～60年1月13日
展示点数　121点
入館者数　62,529人（Ⅰ期46,426人，Ⅱ期16,103人）

出品目録

作家名	作品名
洋画	
カミーユ・コロー	フォンテンブローの風景
ギュスターヴ・クルーベ	雪の中の小鹿
アントニオ・フォンタネージ	神女之図
浅井忠	農婦
〃	京都高等工芸学校の庭
松岡寿	森と小川
石井柏亭	安倍川
〃	聖フランチェスコ寺院
安井曽太郎	熱海附近
梅原龍三郎	竹窓読書図
〃	皇居
板倉鼎	静物
黒田重太郎	女と小犬
林倭衛	岩和田海岸
大久保作次郎	丘上の鐘楼
石橋武治	窓辺の少女
中西利雄	四人の女
〃	曇り日の離宮と駅
〃	人物
小堀進	山
〃	南欧の丘
〃	逆光
〃	セーヌ川
笹岡了一	放蕩息子の帰宅
山谷鎁一	風
桜田精一	冬の並木道
篠崎輝夫	絵馬による
斉藤捷夫	海辺の光景
松本秋美	aspettare
高森登志夫	絵画
斎藤寅彦	時の跡
日本画	
富取風堂	群魚
渡辺学	夜
若木山	池の春
東山魁夷	春雪
杉原元人	海花
関主税	澗声
高畑郁子	メスティーソの女達
松尾敏男	原野
吉岡堅二	濤
島多訥郎	秋趣
加倉井和夫	穀機
田岡春径	幽
小野具定	遠くなった海
後藤純男	山門雨後
東山魁夷	秋深
峯岸魏山人	九十九谷
渡辺学	川口
古城江観	山と杉
田中路人	豊漁
彫塑	
鈴木章	七面鳥
藤野天光	銃後工場の護り
〃	ああ青春
木村賢太郎	立像
〃	うごめくトルソ－Ⅱ
〃	うごめくトルソ－Ⅵ
〃	海
綿引司郎	遙
大須賀力	椅子の女
中島幹夫	風の肖像
郡司和男	詩人の肖像
鈴木徹	帰雲・春
山崎英五	地を這うものどもXIV
工芸	
香取秀真	鳩香炉
〃	笑獅子香炉
津田信夫	鳳翔薫炉
〃	鷲
信田洋	黄銅花いらず
大須賀選	作品63－7（室内とうろう）

作家名	作品名
香取正彦	金銅魚籃観音
鈴木治平	条紋金彩花瓶
宮之原謙	象嵌磁鉢
山本正年	瑞光
土肥満	向いあう単体
藤田喬平	飾筥朱雀
青木滋芳	染色笠森寺
書	
石井雙石	林鳥相忘不避人
鱸松塘	五言絶句（A）
江川碧潭	龍渓山
浅見喜舟	檪櫨
小幕青風	天飄
浅見錦龍	良寛の詩
高沢南総	桃李争妍
大石隆子	待君
椿貞雄コーナー	
洋画	
椿貞雄	自画像
〃	八重子像
〃	横堀角次郎兄像
〃	春夏秋冬図屏風(春)
〃	アンドレ裸体

作家名	作品名
椿貞雄	黒壺に椿一輪
〃	岩
〃	鋸山から見た房総半島
〃	老政治家の像
〃	水彩画家(渡辺義一君像)
〃	秋果図
〃	鴨図
日本画	
椿貞雄	山茶花図
〃	おこぜ
〃	かれい
原勝郎コーナー	
洋画	
原勝郎	コーヒーひき
〃	森（C）
〃	森
〃	京橋
〃	樹
〃	森（A）
〃	モンマルトル
〃	街灯のある風景
〃	デッサン(A～P)

椿貞雄「八重子像」

原勝郎「街灯のある風景」

印刷物　目録　B５　６ページ　5,000部（Ⅰ，Ⅱ期共通）

常設 収蔵作品展(III期)

《房総ゆかりの美術家》をテーマとし，日本近代美術の先駆者である浅井忠，香取秀真，津田信夫等や，現在国内外で活躍している東山魁夷，浜口陽三等を中心に洋画，日本画，工芸(金工)，版画の各分野の作品を展示した。

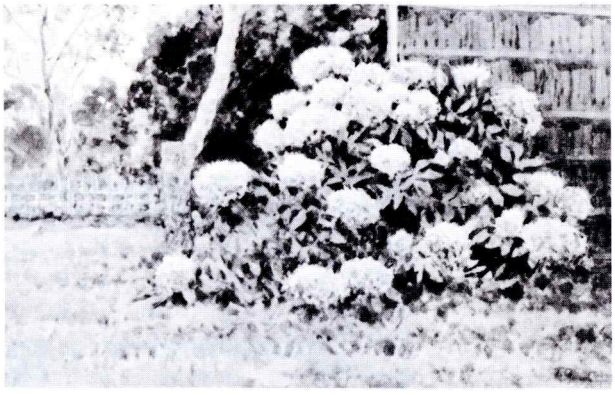
会　　期　昭和60年3月7日～3月31日
展示点数　109点
入館者数　10,249人

出品目録

作家名	作品名
洋画	
浅井忠	フォンテンブローの森
堀江正章	西村房太郎像
椿貞雄	八重子像
〃	秋果図
原勝郎	モンマルトル
〃	森
石橋武治	筑波遠望
浅井真	梅林
〃	裸婦D
板倉鼎	金魚
日本画	
石井林響	浦島太郎図
富取風堂	群魚
東山魁夷	門
立石春美	狗
若木山	海女
渡辺学	川口
工芸	
香取秀真	霊獣文大花瓶
〃	鳳凰文様花瓶
〃	笑獅子香炉
〃	菊文釜
〃	鳩香炉
津田信夫	一點玲瓏
〃	鳳翔薫炉
〃	子迷家鴨
〃	北辺夜猫子
香取正彦	朧銀玉錯花瓶
信田洋	伸びゆく湾
〃	透壺
〃	装瓶(六文銭)
〃	立姿瓶
〃	乳装銀瓶
〃	金冠銅瓶
鈴木治平	条紋金彩花瓶
版画	
浜口陽三	草花
〃	うさぎ
〃	したびらめ
〃	緑のぶどう
浜口陽三	魚とさくらんぼ
〃	てんとう虫
〃	ポプラ
〃	赤いパイプ
〃	くるみ
〃	さくらんぼと青い鉢
〃	二匹の蝶
〃	毛糸
星襄一	雪の中で(K)
〃	星座二番
〃	風景(A)－星月夜
〃	赤い地平線
〃	王の樹
〃	青い一列
〃	陽(林)
〃	野の木(A)
深沢幸雄	愛憎
〃	はがねの華
〃	虚空に乱れる
〃	飛神
〃	古い楽譜
〃	女帝
〃	神威A
〃	凝視(青)
〃	青い裸像A
〃	虚空の影
新収蔵作品展	
浅井忠	フォンテンブローの夕景
〃	母の肖像
〃	渓流
〃	パリ公園
〃	松
〃	梅
〃	盗賊
〃	欧州風景
〃	洋上の夕陽
〃	曳船通り
〃	狂女
〃	古城
〃	当世風俗五十番歌合(2番)
〃	〃 (7番)

作家名	作品名
浅井　忠	当世風俗五十番歌合(15番)
〃	〃 (28番)
〃	〃 (雲水他)
〃	〃 (ハンター他)
〃	にわとり
〃	欧州時代スクラップ帳
〃	絵はがき
〃	折本
都鳥英喜	舟小屋
〃	滞船
〃	村の道
大下藤次郎	紫陽花
〃	久々子湖
〃	青梅
三宅克己	小諸城址

作家名	作品名
荒谷直之介	大島風景
〃	若い裸婦たち
石井林響	木華開耶姫
〃	唐美人
〃	梅花書屋
〃	夜道を駆ける人
若木山	島ノ椿
〃	三篶刈る信濃の女
〃	潭
時田直善	魚紋
津田信夫	月下妖麗
〃	変貌七色
〃	閑鱗上下
〃	水牛



大下藤次郎「紫陽花」

石井林響「木華開耶姫」

印刷物　目録　B５　４ページ　5,000部
　　B５　２ページ　5,000部

特別展

—自然との交流—

ミレー、コロー、クールベ展

会　　期　昭和59年９月１日～10月10日
展示点数　99点
入館者数　27,019人

19世紀に入り，ヨーロッパでは科学が飛躍的に進歩し，実証主義的精神や近代市民社会の成立における個人主義の確立に伴い，絵画も新たな展開を見せました。従来の神話画，宗教画，歴史画等に代わり，現実の周辺の風景や素朴な生活をありのままに描くことの意味が改めて認識尊重され，フランスを中心に新しい美の世界が開拓された。特に、ミレーやコローをはじめ，パリ近郊のバルビゾン村を訪れた人々によつて自然の穏やかな風景や農民の日常生活が描かれ，戸外の光と大気の微妙な変化が画面に反映された。またクールベは，徹底した写実主義を標傍して現実に目を向け，生活感情に溢れた作品を生み出した。彼等の画風は，印象派をはじめとして，後の近代絵画の発展に大きな影響を与えている。我が国においては，明治初期に工部美術学校の絵画教授として本格的な洋画をもたらしたフォンタネージがバルビゾン派の流れをくみ，浅井忠，小山正太郎，松岡寿等，明治の洋画の基礎を築いた作家達がその指導を受けている。

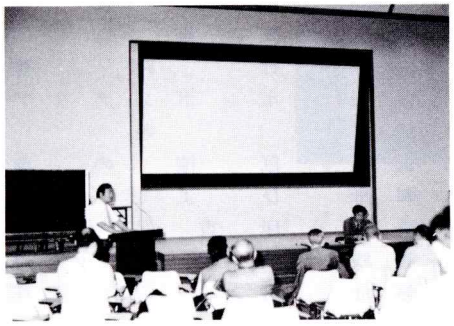
本展では，ミレー，コロー，クールベを中心に，その他バルビゾン関係作家の作品に焦点を当て，近代絵画の形成に貢献した彼等の多彩な活動をふりかえった。

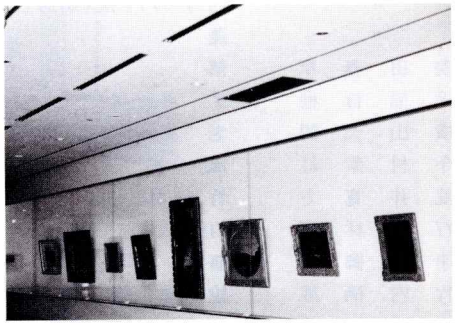
出　品　目　録

作家名	作品名	作家名	作品名
ミレー	男の肖像	ミレー	「FF」タバコケースのデザイン
〃	風景（幌馬車）	〃	種をまく人
〃	母と子	〃	森で（大木）
〃	詩人とオフェリア	〃	落穂拾い
〃	サムソンとデリラ	〃	牛乳をかきまわす女
〃	休息する農夫	〃	肥料をとりこむ農夫
〃	農夫の肖像	〃	耕す人
〃	子どもの肖像	〃	裁縫をする人
〃	鶏に餌をやる女	〃	鴛鳥番の少女
〃	洗濯する女	〃	羊毛を梳く女
〃	乳しぼり	〃	オリヴィエ・ド・セール
〃	水を運ぶ女	〃	ミルク粥
〃	毛を刈られた羊	〃	羊飼いの女
〃	エミリー・ミレー像	〃	母親の心づかい
〃	グレヴィルの海岸	〃	桶の水をあける婦人
〃	窓辺の少年	〃	仕事に出かける人
〃	ジプシーの女占い師	〃	オーヴェルニュ地方の糸紡ぎ女
〃	古い石垣	〃	ジャガイモの取入れ
〃	道	〃	腰を下ろしている羊飼いの女
〃	手押車を押す男	ミレー，ボドメル	フォンテンブローの森
〃	川で水をくむ女		

作家名	作品名
コロー	イタリアの女
〃	フォンテンブローの風景
〃	フォンテンブローの森
〃	ヴィル・ダブレーの池（洗濯女たちと水飼場の馬）
〃	休息する牛飼い
〃	村落の見える小径の農婦
〃	ケイユーにおける突風の思い出
〃	柳の木のそばで牛を見張る農婦
〃	沼地の牧場
〃	ガトー牧場
〃	牧場をよぎる風
〃	川辺の牧草地
〃	「考える若い女」あるいは「瞑想」
〃	ナポリの浜の思い出
〃	田園の夕ぐれ
〃	ボロメ島の浴女たち
〃	河口の樹の下の農婦
〃	幼ない妹
クールベ	まどろむ裸婦
〃	海辺の風景
〃	龍巻
〃	もの思うジプシー女
〃	エトルタの断崖
〃	波
〃	磯辺
〃	雪の中の小鹿
〃	波
〃	鹿のいる風景
〃	雪景色

作家名	作品名
クールベ	帆船の浮かぶジュネーブ湖上の嵐
〃	ダン・デュ・ミディ
〃	渓流（オルナン）
〃	フランシュ・コンテ風景
〃	ねずみとり
〃	村の娘たち
ミッシェル	小径の木こり
ドカン	牛車のある夕暮風景
ユエ	羊飼いと羊の群れ
ディアズ	森の中の薪拾い
ドーミエ	水飲み場
トロワイヨン	サン＝クルー公園
デュプレ(ジュール)	牛のいる風景
〃	月明りの海
ルソー	フォンテンブローの森
ジャック	森の羊飼いと羊
〃	羊飼いと羊
シャントルイユ	洗濯女たちの家
デュプレ(レオン・ヴィクトル)	農園の牛
ドービニー(シャルル)	オワーズ河の夏の朝
アルピニー	フォンテンブローの日没
ブーダン	トゥク海岸小牧場内の牛たち
ドフォー	森の道の羊と牛
ヴェラサ	渡し舟
〃	収穫
シェニョー	夕暮れ
レニエ	丘の上の木立ち
ドービニー(カール)	沼辺の木立ち
デュプレ(ジュリアン)	羊飼いの女と羊の群れ





講演会 59年9月16日 「ミレー，コロー，クールベとバルビゾン派」 島田 紀夫氏

美術を語る会 59年9月29日 「日本人とバルビゾン派」 丹屋 安典氏

印刷物

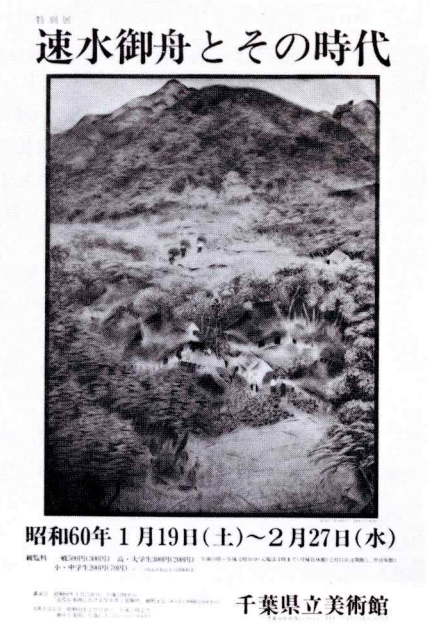
図録	A4変形	1,000部
ポスター	B2	1,000部
	B3	550部
チラシ(兼・目録)	B5	25,000部

速水御舟とその時代展

会　　期　昭和60年１月19日～２月27日
展示点数　64点
入館者数　7,639人

千葉県茂原市の出身蒔田良三郎を父にもつ速水御舟は，日本近代日本画史上に偉大な足跡を残し，41歳で没した。

本展覧会では，御舟の活躍した明治後期から昭和初期に焦点をあて，多彩な日本画の展開を回顧するとともに，その流れの中に御舟を位置づけ，その画業を展観した。

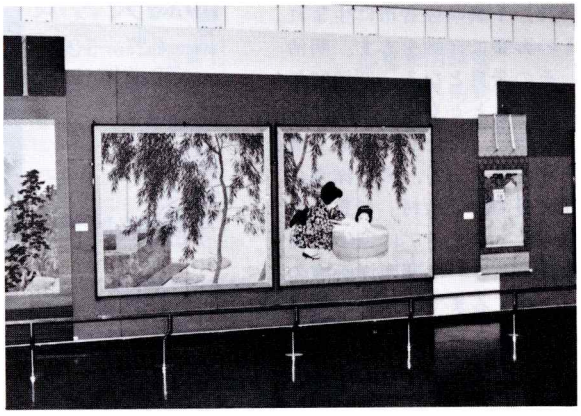


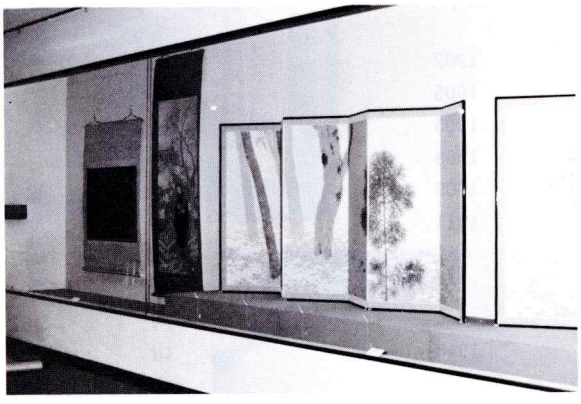
出　品　目　録

作家名	作品名	作家名	作品名
山元春挙	渓山密雪	酒井三良	雪に埋れつつ正月はゆく
土田麦僊	罰	速水御舟	比叡山
速水御舟	四季の内春（梅と鶯）	入江波光	彼岸
〃	四季の内秋（蜻蛉と尾花）	冨田渓仙	祇園夜桜
〃	蓬莱	速水御舟	渓泉二図
菱田春草	落葉	木島桜谷	行路難
平福百穂	アイヌの子供	小茂田青樹	ポンポンダリア
横山大観	老君出関	小林柯白	蓮
今村紫紅	風神・雷神	宇田荻邨	巨椋の池
荒井寛方	竹林の聴法	速水御舟	ひよこ図
石井林響	白映	松岡映丘	伊香保の沼
速水御舟	萠芽	小川芋銭	夢中野干燈
竹内栖鳳	絵になる最初	速水御舟	水仙花
小野竹喬	南島四季のうち　春秋	川崎小虎	狐火
速水御舟	手向	木村武山	弁財天
今尾景年	松鶴延齢図	池上秀畝	歳寒三友
川合玉堂	駒ヶ嶽	小林古径	琴
菊池契月	ゆうべ	田中頼璋	漁樵問答図
速水御舟	閑亭	結城素明	寒山凍雲
〃	紙すき場（近村）	榊原紫峰	獅子
前田青邨	京八題（先斗町）	山口華揚	鹿
橋本関雪	後赤壁図	速水御舟	寒鳩寒雀
速水御舟	山頭翠明	福田・平八郎	菊
〃	夏の丹波路	池田遙邨	雪の大阪
〃	洛北修学院村	奥村土牛	蓮池

作家名	作品名
安田靱彦	役の行者
速水御舟	夜桜
小茂田青樹	春の夜
冨田渓仙	淀城
児玉希望	暮春
富取風堂	芍薬
橋本明治	撞球

作家名	作品名
山口蓬春	市場
伊東深水	暮方
大智勝観	海風
西村五雲	冬暖
尾竹竹坡	紅葉山水
速水御舟	白鷺紫閃
堅山南風	日午





講演会 60年1月27日 「近代日本画における写実性と装飾性」 細野 正信氏
美術を語る会 60年2月9日 「御舟と茂原」 佐藤 信夫氏
印刷物

図録	A5	1,000部
ポスター	B2	1,000部
	B3	400部
目録	A4	5,000部
チラシ	B5	20,000部

企画展

都島英喜展

会　　期　昭和59年4月27日～5月20日
展示点数　77点
入館者数　9,564人

都鳥英喜は，明治６年（1873）千葉県佐倉市に生まれた。浅井忠の従弟に当り，その影響で洋画を志す。明治22年明治美術会が組織され，その会員となる。明治35年浅井に従って京都へ移住し，浅井らとともに聖護院洋画研究所・関西美術院の設立に尽力し，また京都高等工芸学校講師として多くの逸材を育てた。一方，太平洋画会展・文展等に出品し，第３回文展では「山村」で褒状をうけ，大正８～10年にはフランス・イタリアに留学。帰国後は，京都高等工芸学校教授，あるいは関西洋画壇の重鎮として昭和18年（1943）に没するまで，後進の育成につとめた。

本展では，浅井忠の名声にかくれた都鳥英喜に焦点をあて，その作品を一堂に展観することにより，都鳥の画業を回顧し，顕彰した。

出品目録

作品名	制作年
油彩	
稲架	1902
森の黄昏（奈良）	1905
馬	1905
男の顔	1908
海浜風景	1909
農村風景	1911
鳥	
静物	
晩秋の山	
諸寄村（習作）	1913
霧島山	1916
上高地	1917
前穂高	1917
琵琶湖畔の煙雨	1919
南仏風景	1919
巴里河流上流	
巴里郊外	1919
巴里郊外中ノ島のポプラ	
河岸	
セイヌ河	1919
婦人像	C. 1919
フランスの秋花	
ノルマンディー海岸	1919
伊太利アマルヒ海岸	1920
ナポリ郊外ヒアル城跡塔	
風景	
巴里郊外サンクール	1920
香港	1921
上賀茂	1922
洛北の秋	1924
秋奈良	
徳成橋	1924
窓	1925
向岸	1926
山村	1927
舟小屋	1928
チューリップ	1928
車窓風景	1929
八瀬の秋	1929
洛北の秋	1931
洛北の秋（習作）	1931
群鯉	1931
串本	1931
琵琶湖畔	1931
晩秋	1932
滞船	1933
洛北の早春	1934
水辺の樹々	1934
静物	1935
洛北の春	1937
富士	1938
村の道	1942
水彩・パステル	

作品名	制作年
れんげ畑	1905
真如堂裏	1906
鴨川	1907
頂法寺	
風景	
小豆島	1913

作品名	制作年
間人海岸	1913
奈良	
ストラスブルグの夕陽	1920
街角	1921
伊太利アマルヒ	

関係作品及び資料

浅井忠	都鳥助八重成像	
霜鳥之彦	都鳥英喜像	
都鳥英喜	素描	（6枚）
〃	スケッチブック	（6冊）
〃	あんま	（日本画）
都鳥英喜	小原女	（日本画）
〃	大原女	（日本画）

都鳥家由緑書
都鳥家馬術資料
太平洋画会寄書折本　※その他

美術を語る会　5月12日「佐倉藩と都鳥家」青柳　嘉忠氏

印刷物

ポスター	A2	500部
図録	B5	100部
目録	B5	5,000部

—カナディアン・ロッキーの芸術家たち—

カナダ・アルバータ州現代美術展

会　　期　昭和59年6月19日～7月8日
展示点数　44点
入館者数　6,647人

国際相互理解と親善に努めている芸術海外交流会との共催，カナダ大使館，カナダ・アルバータ州政府の後援により，カナダの芸術を広く一般に紹介するとともに，両国の国際交流をより深めるため，開催した。

本展では，カナダ・アルバータ州芸術家協会が“芸術交流”というテーマで審査，選抜した31作家44点を展示した。版画・水彩・油彩等の独特な手法で制作されたものが多く、カナダの自然が詩情豊かに表現された作品が多かった。

出品目録

作家名	作品名
キャロル・ボンダロフ	肥沃
〃	ガリアノ・トリプッチ
キャロル・ブリーン	祝福
ゴードン・クリストファー	ツンドラ
〃	球体と起伏
コリーン・キャンベル	ナパリ旅行のイメージ
〃	〃
ウィリアム・デューマ	プレーリーの空
ピーター・ディーコン	エリプス No.9
〃	コラージュ No.9
モーリーン・ハービィ	テニスをする人（家族のアルバム・シリーズより）
シャロン・クリスチャン・ホルムズ	緑のカーテンとツタ
バーバラ・ロー・ヒクリン	嵐のあと
〃	夕焼
ハリー・M・キヨオカ	ベニス、サンマルコ
〃	イタリア
ブレント・R・レイコック	荒地
〃	暖かい2月の午後
マルゴ・ラガッセ-ラングロア	A／P オリジン No.1
〃	時の流れを忘れて
ロリー・レムコ	踊る木々 No.1
ジェームス・マーシャル	私の好きな樹
F・ダグラス・モッター	バルフォー近郊
ジュディ・マトロック	綿の木の枝
ジューン・モンゴメリー	ハマツアーアメリカ
〃	北西インディアンの舞踊仮面
ヘレン・マッキー	ブクワスーインディアンの伝説
〃	ティピス－夜の風
ジャネット・ミッチェル	夜のティピス
コリーン・アンダーソン-ミラード	間違った検証
アン・ナッシュ	プレーリーの草
〃	アルバータ・ゴシック
ジノ・ペッツァーニ	さまよう住人
ジーン・リチャーズ	峡谷
ジョアン・カーディナル-シューベルト	秋の野原
イルゼ・サルコースカス	旗
パット・ストラコスキー	過渡期の母と娘
ビビアン・シールフェルダー	家族の肖像
〃	夜の光
ジョアン・バン・ベルカム	カリグラフィー・パートI
ジャネット・L・ウォーカー	光るプレーリーの川
アンディ・C・ウィッチャーツ	アルバータのバラの押花
ヨーン・ヤング	上から
〃	7枚のベール-数えてごらん
	夢のケーキ

美術を語る会　6月19日　「日本の美・カナダの美」　出品作家13名
印刷物　ポスター　B3　500部
　　目録　B5　3,000部

—21世紀への飛躍—

第1回　現代日本具象彫刻展

会　　期　昭和60年2月2日～2月24日
展示点数　65点
入館者数　7,238人

500万県民を記念し，現在千葉市の「青葉の森公園」(約53ha)内の「彫刻の広場」に県民に親しみやすい彫刻を設置するため，全国規模で具象彫刻作品の公募を行った。この展覧会は，公募の受賞・入選作品と「彫刻の広場」に作品の設置を依頼する招待作家の作品を展覧し広く県民のかたがたに彫刻の美を鑑賞していただくことを目的として開催した。(主催，千葉県・千葉県教育委員会／運営，現代日本具象彫刻展実行委員会)

審　査　員

小川正隆	富山秀男	三木多聞
嘉門安雄※	中村傳三郎	(50音順)
弦田平八郎	本間正義	※審査会長

出　品　目　録

作家名	作品名
招待作家	
大須賀　力	杜の詩
神野義衛	とこしえに
北村西望	宇宙時代
佐藤忠良	緑の風(エスキース)
長谷川昻	安息
舟越保武	マリア・マグダレナ
山本正道	アスペンのコロラドII
大　賞	
梅原正夫	元気で
酒井良	時の流れ・人の歩み
鈴木徹	飛べない沈黙
高田大	昼と夜
三木俊治	行列
六崎敏光	香風
入　選	
山崎猛	木馬の詩
松本光司	窓(84－B)
播間公次	みちしるべ
堀豊之	姉妹
高崎哲	青空
広瀬友彦	走
濵野邦昭	FROM THE SKY TO THE SKY
酒本雅行	静謐
本田悦久	接点III
紀國輝喜	小鳥を呼ぶ少年
中村宏	陽光の譜
西中良太	母から子へ
二ノ宮裕子	飛びたい気持
松原静雄	野を駈ける風
外岡秀樹	次なる時へ
加太肇江	抱
三島喜一	蒼穹
間宮哲夫	青き鳥
久保浩	穹(おおぞら)
脇谷幸正	磯辺
中村義孝	鳥が飛ぶ日に
石谷孝二	翔
綿貫ひろ子	海
東田勝男	待ち合わせ(デート)
松岡じゅね	自刻像(Self Portrait)
高野佳昌	二つの形(男と女)
安倍千隆	奇邦人
平井一雄	むかしばなし
杉山仁	風韻II
山崎嘉久	Y氏の昼食
橘井裕	無垢への憧憬IV
青木三四郎	憩い
桜井敏正	立
野崎窮	砂浜
渡辺尋志	静音(せいね)
鈴木徹	陽光(房総の牧)
塙和道	出立(大海への舟出)
岡野重義	若者達の肖像
坂井一任	三つの夢
市村緑郎	大空に
本田貴侶	はじまりの近きにすむもの
小田信夫	将軍の夢

作家名	作品名	作家名	作品名
黒須信子	朝の大気	天野裕夫	シーラカンサス型ピラミッド
久村進	飛躍	松本雄治	大母神，天を翔ける
宇野務	出会い	島根紹	息をせずに生きる方法について シリーズNo.68『子供達の遺志』
尾嶋正廣	閉じこめられた運命『童話』	金田雄作	"Bed room" N氏邸見取図より
後藤敏伸	翔（SHOW） '84	小島靖成	法王

美術を語る会　2月23日　「彫刻と私」鈴木　徹氏

印刷物　ポスター　B2　1,000部
B2　3,000部
募集要項　B5　10,500部

第8回　千葉県移動美術館

会　　場　①佐原市中央公民館
　　②富里中央公民館
会　　期　①昭和59年9月12日～9月30日
　　②昭和59年10月3日～10月21日
展示点数　①49点　②49点
入館者数　①2,868人　②1,505人

本館は，昭和49年10月に開館して以来，郷土にかかわりの深い作品を中心に，徐々に収集の輪を広げている。これらの作品は本館の常設展において，特別展等の期間を除いて順次公開してきたが，さらに，より広く県民に美術作品鑑賞の機会を提供するために千葉県移動美術館を企画した。

出　品　目　録

作家名	作品名
日本画	
島多訥郎	秋趣
東山魁夷	門
立石春美	狗
秋葉長生	西の京
渡辺学	川口
松尾敏男	原野
高畑郁子	メスティーソの女達
洋画	
浅井忠	藁屋根
伊藤快彦	林檎
都鳥英喜	巴里郊外サンクール
石井柏亭	聖フランチェスコ寺院
霜鳥之彦	ロシアの女
黒田重太郎	女と小犬
安井曽太郎	熱海附近
梅原龍三郎	竹窓読書図
田中善之助	パリの女
原勝郎	モンマルトル
鶴田吾郎	お山の鈴音
石橋武治	筑波遠望
大久保作次郎	丘上の鐘楼
椿貞雄	八重子像
不破章	二女
小堀進	レマン湖畔
山本不二夫	ハイデルベルグ風景
桜田精一	冬の並木道
鍐嘔	INSECTS

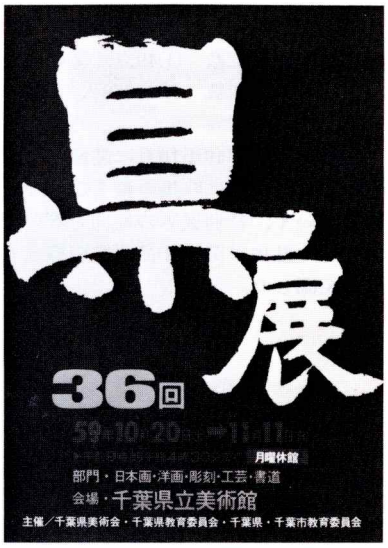
作家名	作品名
版画	
浜口陽三	ざくろ
〃	さくらんぼと青い鉢
星襄一	王の樹
〃	陽（林）
深沢幸雄	古い楽譜
〃	掌の中の影
池田満寿夫	Something I
〃	シンデレラの広告
彫刻	
大川逞一	聖観音
大須賀力	倚る
神野義衛	呻
工芸	
香取秀真	笑獅子香炉
〃	鳩香炉
津田信夫	鳳翔薫炉
〃	子迷家鴨
宮之原謙	象嵌磁鉢
土肥刀泉	釉彩両耳花瓶
香取正彦	朧銀玉錯花瓶
信田洋	乳装銀瓶
藤田喬平	飾筥朱雀
書	
大石隆子	待君
小暮青風	天風
鈴木方鶴	万昌

印刷物　ポスター　A2　1,000部
　　目　録　B4　2折　10,000部

千葉県芸術祭

第36回 千葉県美術展覧会

会　　期　昭和59年10月20日～11月11日
展示点数　2,064点
主　　催　千葉県美術会・千葉県教育委員会・千葉県・千葉市教育委員会



本県の美術家の作品を広く紹介するとともに、県民の美意識を高め，郷土美術文化の振興と情操の純化に資するために開催するもので，日本画・洋画・彫塑・工芸・書道の各分野を展示した。

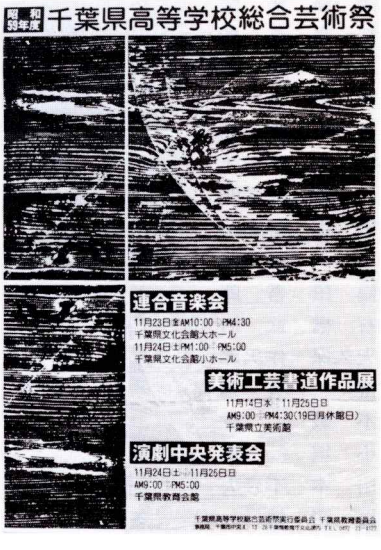
	会員点数	公募点数	入選点数	陳列点数	新入選
日本画	181(84)	205(179)	172(152)	253(236)	9(36)
洋　画	182(178)	679(646)	405(370)	587(548)	80(110)
彫　刻	61(57)	30(34)	26(31)	87(88)	11(10)
工　芸	64(56)	159(157)	127(118)	191(174)	45(46)
書　道	183(184)	981(910)	763(757)	946(941)	148(131)
計	571(559)	2054(1926)	1493(1428)	2064(1987)	293(333)

（　）内は35回展

解説会　11月10日　日本画
10月27日　洋　画
10月28日　彫　塑
11月3日　工　芸
11月4日　書　道

昭和59年度 千葉県高等学校
美術工芸書道作品展

会　　期　昭和59年11月14日～11月25日
主　　催　千葉県高等学校総合芸術祭実行委員会
千葉県教育委員会



千葉県高等学校における美術，工芸，書道の授業及び部活動の平素の姿を紹介し，生徒の教材として，また，教師の指導の研究材料として役立てるとともに，広く一般社会に対して，現在の千葉県高等学校美術・工芸・書道教育についての理解と認識を深めてもらうことを目的とした。

参加状況

部　門	書　道	美術・工芸	計
生　徒	122校	97校	219校
教　員	103校	19校	122校
計	225校	116校	341校

昭和59年度千葉県芸術祭

第31回 千葉県勤労者美術展

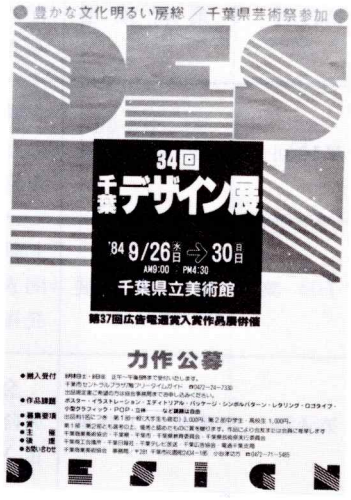
会　　期　昭和59年９月26日～９月30日
展示点数　272点
主　　催　千葉県労働者福祉協議会・千葉県

勤労者が余暇を利用して創作した美術品の発表の場を提供することによって，文化的教養の向上を図った。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数	会員数
188	272	188	272	272	0

昭和59年度千葉県芸術祭

第34回 千葉デザイン展



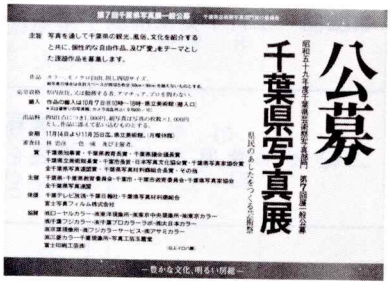
会　　期　昭和59年９月26日～９月30日
展示点数　69点
主　　催　千葉商業美術協会・千葉県教育委員会・
　　千葉県・千葉市教育委員会

グラフィックデザイン作品の公募及び展示することにより，県内デザインの質的レベルアップを図るとともに，デザイン志向者の育成に努めた。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数	会員数
103	108	46	49	69	11

昭和59年度千葉県芸術祭

第７回 千葉県写真展



会　　期　昭和59年11月14日～11月25日
展示点数　126点
主　　催　千葉県写真家協会・千葉県教育委員会

写真を通じて，千葉県の文化向上に資する目的で，千葉県芸術祭行事として，広く県民に公募し，千葉県の観光，風俗，文化を紹介した。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数	会員数
377	511	83	99	126	10

団体展

展覧会名	内容等	会期	展示点数
第10回 武蔵野美術大学校友会千葉県支部展	日頃の研究の成果を発表することにより，相互の啓発と後進の育成を図るとともに県内の美術，デザインの認識を高め向上を図った。	59．4．10 ～ 4．15	35
第21回 全日本書の友会綜合書道大展覧会	千葉県の郷土の書道文化の向上をめざし，加えて全国各地より参加し，その力量を競い合い，書道を通じて千葉県の書道文化の向上発展に貢献することを目的とした。	59．4．17 ～ 4．22	1,698
第11回 千葉新協展	展覧会を通し，広い立場で県民の美術的関心を育てると共に，新人作家の育成を目的とし，絵画，写真を展示した。	59．4．24 ～ 5．6	85
第10回 歩会彫刻展	県内在住及び県出身の彫刻家により所属や流派にとらわれない自由な勉強の成果を発表することを目的とした。	59．5．2 ～ 5．13	60
千葉等迦展	県民に広く本会同人の作品を紹介するとともに，同人各自の研修，向上を図り，併せて新人作家の発掘，育成を目的とした。	59．5．8 ～ 5．13	71
第4回 千葉美術工芸展	会員相互の親和と協力により，千葉県の文化の興隆を図り，会員の資質の向上及び新人育成を目的として工芸作品を展示した。	59．5．8 ～ 5．20	84
第15回 表美展	会員の資質の向上を図り，技術の後継を目的として，表装を主に額装などの作品を展示した。	59．5．15 ～ 5．20	120
千葉市アマチュア美術展覧会	千葉県在住のアマチュア美術愛好者の作品を紹介し，熱心な美術愛好者を増加せしめると共に，文化活動の一端をになう意欲を育成することを目的とし，絵画，書道，工芸等を展示した。	59．5．15 ～ 5．20	197
第29回 二科千葉支部展	広く県下一般・ジュニアより作品を公募し，県美術振興の発展を願い，本会の趣旨にそって開催した。	59．5．22 ～ 5．27	1,215
二紀会千葉県支部展	展覧会を開催することによって，本会の向上，発展を図ると共に，　千葉県文化の向上に寄与することを目的とし，絵画，彫刻を展示した。	59．5．22 ～ 5．27	48
第7回 一陽会千葉支部展	千葉県在住作家の近作油絵を発表し，会員の研修と美術普及を目的とした。	59．5．29 ～ 6．3	61

展覧会名	内容等	会期	展示点数
第11回 千虹会日本画展	千葉県の日本画壇の結集団体としての本会の発展，向上を目的とした。	59．5．29 ～ 6．3	29
第5回 千葉全展	県内同好者の公募を行うと共に，全日本美術協会の関東全域の有志に協力を呼びかけ親睦と相互研修の場とした。	59．6．5 ～ 6．10	166
第10回 篆展	流派，作風にとらわれることなく自由に発表できる場として，絵画，工芸，写真等を展示した。	59．6．5 ～ 6．10	61
第8回 墨の県展	千葉県の文化の発展に力をつくし併せて県民の伝統及び文化の啓蒙に資することを目的とし，水墨画，墨彩画を展示した。	59．6．12 ～ 6．17	351
日本画秀峰会展	日頃の成果を発表することにより，会員の向上と励みとすると共に，地方文化の向上の一助とするため日本画作品を展示した。	59．6．12 ～ 6．24	60
千葉県書道協会展	千葉県書道文化の普及と発展のため，流派にとらわれない高い視点に立って書道作品を展示した。	59．6．19 ～ 6．24	269
第17回 千葉県高校合同写真展	生徒相互の写真技術の向上をめざし，県内高校写真部員の作品を展示し，日頃の成果を発表した。	59．6．19 ～ 6．24	279
第7回 精鋭展	県内在住の主婦を主体とし，会員相互の研修と県民の文化意識を高めるため作品を展示した。	59．6．26 ～ 7．8	50
第2回 〈明日を拓く〉教育美術展	県内在住の児童画教育者の質的向上を願って，児童生徒の作品を展示した。	59．7．3 ～ 7．8	97
第5回 青枢千葉展＆国際扇面展	千葉県の文化向上に寄与するため，全国公募による扇面作品と洋画，日本画等を展示した。	59．7．10 ～ 7．15	660
第16回 千葉市水墨画同好会連合会展	会員相互の親睦と千葉市文化の向上を目的として，水墨画及び掛軸を展示した。	59．7．17 ～ 7．29	49

展覧会名	内容等	会期	展示点数
中央美術協会千葉支部展	会員相互の親睦と向上を計り，地域文化の発展に役立つことを目的とし，日本画，洋画等を展示した。	59．7．31 ～8．5	49
第54回　習美会初夏展	美術を通して，潤いのある生活を築き，多くの人々との交流を図りながら平和と文化に貢献することを目的とし，洋画，日本画を展示した。	59．7．31 ～8．5	160
第4回　日本春秋書院千葉県書道連盟展	書技術の向上と千葉県書道教育発展に資するため，県内公募作品と会員の作品を展示した。	59．7．31 ～8．5	120
第13回　写真千葉県展	写真を通じ県民文化の推進を図ると共に，相互の親交を深め，併せて地域の観光開発・発展に寄与するため入選作を展示した。	59．8．7 ～8．19	259
第4回　千葉サンケイ現代洋画展	千葉県美術界の発展・向上と新人の発掘を目的として，洋画（版画を含む）を公募し，その入選作を展示した。	59．8．7 ～8．19	250
第9回　子供と教師の作品展	美術教育の振興と教師の研修の場として，児童作品及び教師作品を展示した。	59．8．21 ～8．26	230
第12回　千葉市教職員美術展	千葉市教職員の自己研修の場とし，千葉市教職員の図工・美術担当教員全体のレベル向上に資するため，絵画，彫塑，工芸等の作品を展示した。	59．8．21 ～8．26	131
第8回　尽墨会書作展	今後の活動の糧とするため，日頃の成果を発表した。	59．8．21 ～8．26	35
第14回　いてふ会彫刻展	児童・生徒・保護者に彫刻芸術への興味・関心・理解を深め，情操豊かな人間性を育てるとともに，会員の一年間の成果を問うことを目的に開催した。	59．8．21 ～9．2	59
静雅書道会小中学部千葉地区展	未就学児童より中学生までの会員全員の条幅作品を展示し，日頃の成果を発表した。	59．8．28 ～9．2	170
第5回　龍峡書道会千葉県人展	書道の普及推進を図り併せて，健全なる精神の涵養に努め，ひいては人間形成の醸成に努めることを目的とした。	59．8．28 ～9．2	700

展覧会名	内容等	会期	展示点数
刻字千葉展	広く県民に技量を問い，刻字書道の認識と理解を深めるため開催した。	59．8．28 ～ 9．2	96
第24回白扇書道会展覧会	地方文化の発展に寄与するため，会員作品と公募の入選作品を展示した。また，中国の書と原拓を陳列して国際親善に役立たせるため開催した。	59．9．4 ～ 9．9	4,337
第16回 ファンシー洋画展	同会会員の作品を展示し，会員の技術向上とより深い親睦を図るため開催した。	59．9．11 ～ 9．16	112
第11回 文化書道 千葉県連合会公募展覧会	同会の教育書道の本義に則り，書道教育とその隆昌に貢献するため会員作品と公募作品を併せ展示した。	59．9．11 ～ 9．16	930
第14回 新構造千葉支部展	千葉県在住の同会会員，準会員，会友及び県内公募による入選作品を展示し，出品者相互の親睦と資質の向上を図って開催した。	59．9．11 ～ 9．16	90
千葉84展	現代に生きる新しい美術についての理解を深めるため，実験的な制作活動を行う美術家の交流と相互啓発を行い，県内美術文化の向上を図って開催した。	59．9．18 ～ 9．24	144
二科会写真部 第4回 千葉支部写真展	県内写真家の作品を展示し，会員相互の技術向上を図るとともに，後進の育成に努めた。	59．9．26 ～ 9．30	80
第22回 新世紀美術協会 千葉支部展	会員相互の向上を目的として，同会千葉支部員全員の作品を展示した。	59．9．26 ～ 9．30	69
第27回 千葉市小・中・養護学校児童・生徒作品総合展覧会	各教科，領域における日頃の学習成果を展示し，当該教科領域の向上を図るとともに，作品評価の観点や製作過程の研究を通して，教職員，保護者，児童生徒の研修・啓発に資する。	59．10．2 ～ 10．10	6,055
第29回 こども県展	県内小・中学校児童・生徒の絵画作品を一堂に展示し，次代を担うこどもたちの美的情操を豊かにし，創造性を高めることを目的として開催した。	59．11．27 ～ 12．9	6,903
第7回 千葉展	行動，主体，新象，新制作，独立，モダンアートの6公募団体に所属する県内在住作家の共同企画で，各団体の枠を超えた真剣勝負の場とし，併せて千葉県美術文化の発展・普及に寄与するため開催した。	59．12．11 ～ 12．23	121

展覧会名	内容等	会期	展示点数
第21回 登龍社・宮坂会書初展	書初の作品を作成するにあたり，書道的技術の向上と県文化の貢献に寄与するため開催した。	60．1．5 ～ 1．10	337
秋耕会千葉支部展	県内在住の同会会員，会友，その他の作品を展示し，相互の研修と親睦を深める場として開催した。	60．1．5 ～ 1．10	123
第14回 千葉県大学美術連盟展	千葉県における加盟大学の美術サークル相互の協力により親睦を深め，併せて絵画技術の向上を目的にして，加盟大学に限らず県内各大学のサークルの作品を展示した。	60．1．5 ～ 1．10	203
第9回 葉美会展覧会	美術館友の会会員の日常の作品や講習で制作した作品を展示し，会員相互の研修と創作の喜びを分かち合うことを目的として開催した。	60．1．11 ～ 1．20	77
「・ ・ はれ」展	地方，中央の枠を超えて，現代美術を千葉に広げるため，千葉県在住作家及びベネチア，パリ等のビエンナーレ出品作家を交えて平面，立体作品を展示した。	60．1．11 ～ 1．20	26
第2回 明るい社会づくりポスターコンクール展示会	県内小・中学生を対象に明るい社会づくり運動の啓蒙を目的としてポスターを募集し，その入選作品を展示した。	60．1．22 ～ 1．27	504
日本・中国友好書道展覧会	日中共通の芸術である書道を展示し，多くの出品者と参観者により世界の永遠平和を望むことを願って開催した。	60．1．22 ～ 1．27	2,113
第2回 千葉県医師会美術展	千葉県医師会の文化活動の一環として開催し，会員相互の親睦と美意識の向上を図った。	60．1．22 ～ 1．27	134
現代書道50人展 現代書壇代表名作展 千葉書壇秀抜展 千葉書壇新進展	県内外の現代書道界から秀抜された作品を一堂に展示し，県書道界のより一層の興隆を目的として開催した。	60．1．29 ～ 2．3	380
千葉大学教育学部美術科卒業制作展	卒業を目前にして，4年間の美術科教師になるための学習の一部を作品を通して発表し，観覧者の批判・指導を仰ぐべく開催した。	60．2．5 ～ 2．11	44
第19回 千葉大学学生書道展	卒業制作作品を中心に1年間の成果を展示し，地域文化の向上に資するため開催した。	60．2．5 ～ 2．11	150

展覧会名	内容等	会期	展示点数
第37回　千葉県小・中・高校書初展覧会	県内小・中・高校生の書初を実施することにより，書写・習字教育の振興に寄与し，併せて，伝統的な書初の風習を継承していくため開催した。	60．2．5 ～ 2．11	900
群鴎書人展	会員の多角的様式の研究と現代的書の発表の場とした。	60．2．13 ～ 2．17	81
第10回　千葉県民写真展	県内アマチュアカメラマンがその力量を競い合い，写真文化の発展と写真を通じて地域社会に貢献する精神の涵養を目的として開催した。	60．2．14 ～ 2．24	345
幕張北高校書道コース卒業制作展	書道コースを卒業するにあたり，学習の成果を発表した。	60．2．13 ～ 2．17	69
第8回　唱和会書展	会員の研究成果を発表し，書道技術の向上を図り，一般鑑賞者に書道についての理解を深めてもらうため開催した。	60．2．19 ～ 2．24	50
和洋女子大学国文学科書道卒業作品　雁鴻会展	和洋女子大学国文学科で書道を履修している学生が4年間の学習の成果を発表した。	60．2．19 ～ 2．24	55
弥生展	書星会師教，師範による平素の書道研究の発表の場として開催した。	60．2．26 ～ 3．3	126
子ども造形展	子どもの個人制作や共同制作の作品を展示し，子ども達の観賞・交流の場とし，併せて，幼稚園教諭，幼児・児童造形講師等関係者の研修の場とするため開催した。	60．2．26 ～ 3．3	660
親子絵画展	美術を媒介として，親と子のきずなをより強くするため，親と子の絵画，彫刻，工芸等を展示した。	60．2．26 ～ 3．3	186
第16回　昭和59年度千葉市民美術展覧会	千葉市内在住在勤又は本市出身者を対象に作品を展示し，千葉市及び千葉県の美術文化の普及・振興を図った。	60．3．5 ～ 3．24	1,102
第32回　書星教育部展	小・中・高校生の習字・書道の振興と技能向上のため半切条幅の作品を展示し，創作活動と作品鑑賞の両面の向上を図った。	60．3．26 ～ 3．31	1,814

教育・普及

講　演　会

(1)　ミレー，コロー，クールベとバルビゾン派

講　師　　実践女子大学助教授　島田紀夫氏
期　日　　昭和59年９月16日

ミレーの農民画は，ピサロ，ゴッホ，ゴーガン，スーラなど多くの画家に影響を与え，また彼等もミレーの作品の中に自己の芸術にとって重要な意味をもつ「テーマ」を読み取った人たちもいたが，大多数は農民画という「主題」を受け継ぐにとどまった。また，ミレーは，少なくとも第一次世界大戦の始まるころまでは高い評価を得ていたが，形骸化したアカデミスムと通俗的な感傷性の故をもって，ミレーの名は正当な美術史の上から消えていった。

ミレーに比べるとコローの評価は一定しているようにみえる。ピサロ，シスレーなどが生前のコローから外光描写の指導を受けており，モネやルノワールらにも直接間接に影響を与えており，ピカソやブラックのキュビスムの新たな展開にも寄与するなど，彼の芸術の造形的側面が高く評価されたからであろう。

コローと同じようにクールベも1860年代の風景画家たちに大きな感化を及ぼした。モネ，ルノワール，ゴーガン，ゴッホらのほか，マティスもクールベによってルーヴル美術館の古い時代の作品の見方を学んだと述べている。キュビスムに与えたクールベの影響は，コローのそれと同様に重要である。しかし，このクールベもミレーと同様，1860年以降は物議をかもすような作品は描かなくなる。彼らの芸術の真の独創性が理解されるには，長い時間を必要とすることになる。

氏は，多くのスライドを用意され，ミレー，コロー，クールベを中心にエピソードなどもまじえてわかりやすく話された。

(2)　近代日本画における写実性と装飾性

講　師　　東京国立博物館主任研究官　細野正信氏
期　日　　昭和60年１月27日

まずはじめに，日本画の近代化に重要な影響を与えた明治初期の洋画についてふれ，近代日本画の展開は，洋画とのかかわりなしには考えられないと前置きされた。

日本画の近代化はフェノロサの活動に始まり，彼は，日本画と洋画とを対置させ，日本画の二大欠陥として写実性と装飾性をとりあげた。また，岡倉天心は，黒田清輝ら外光派が唱えた「空気」を描く工夫を，横山大観や菱田春草に設問した。朦朧体は，和洋折衷によって果たされたのである。そして，明治末になると，日本画は写実的な傾向を呈するようになった。

次に，御舟が傾倒した今村紫紅や，御舟が加盟していた紅児会，赤曜会について，さらに彼らが文展を離れ，再興院展に参加して行く経過，また，御舟の芸術の行き方などが語られた。

日本画における写実か装飾かの二律背反をいかに融合させていくかが近代日本画の大きな課題の一つであり，明治末期から昭和初期に活躍した作家たちは，様々に新しい日本画の創造を試み，推し進めて行った。この近代日本画の流れの中で，最も多彩な展開を示した時代に焦点を当てた今回の企画は，日本画における写実と装飾とを改めて考える契機となろうと結ばれ，その後，スライドを使って，御舟及びその他代表的作家の作品約80点について解説を加えられた。

ミレー・コロー・クールベとバルビゾン派

近代日本画における写実性と装飾性

実　技　講　座

「みる・かたる・つくる」という本館の事業の一環として実技講座を実施しているが，本年度は次の講座を行った。

(1)　日本画入門講座

期　日　昭和59年６月15日・16日・29日・30日，７月18日・19日・20日
講　師　県美術会理事　宮沢一雅氏
参加者数　25名
内　容　　花，くだもの，野菜などを描きながら，えのぐ，筆などの材料や用具，また，物の見方や色のぬり方など，日本画の基本的な技法について学習した。

(2)　日本画研修講座

期　日　昭和59年11月24日・25日，12月１日・２日・16日・17日・18日
講　師　県美術会理事　松原道男氏
参加者数　25名
内　容　　日本画入門講座を終了したもの，または同程度のものを対象にして，静物や各自持ち寄ったスケッチなどで，特に技術面に重点を置いて学習した。

(3)　デッサン入門講座

期　日　第１期　昭和59年７月24日・25日・26日
　　第２期　昭和59年８月22日・23日・24日
　　第３期　昭和59年11月27日・28日・29日
　　第４期　昭和60年２月16日・17日・18日
講　師　第１期　千葉大学助教授　戸田健夫氏
　　第２期　県美術会理事　羽生智樹氏
　　第３期　洋画家　　遠藤健郎氏
　　第４期　県美術会常任理事　天野三郎氏
参加者数　各期30名
内　容　　人物，静物，石膏等のデッサンをし，形のとり方，明暗，立体感，動き，質感，空間感など，デッサンの基本的な技法について学習した。

(4)　洋画入門講座

期　日　第１期　昭和59年６月２日・３日・23日・24日，７月14日・15日・16日
　　第２期　昭和59年９月８日・９日・22日・23日，10月13日・14日・15日
講　師　第１期　千葉大学教授　太田洋三氏
　　第２期　千葉県立船橋高等学校教諭　根岸茂行氏
参加者数　各期30名
内　容　　人物，静物，風景などを題材にして，油彩の制作を通して，洋画の基礎的な技法等について学習した。

(5)　洋画研修講座

期　日　第１期　昭和59年６月９日・10日，７月７日・８日
　　第２期　昭和59年８月18日・19日，９月１日・２日
　　第３期　昭和59年10月31日，11月１日，12月５日・６日
講　師　第１期　千葉大学教授　武内和夫氏
　　第２期　県美術会理事　高橋規矩治郎氏
　　第３期　県美術会理事　渡辺　晋氏
参加者数　各期30名
内　容　　洋画入門講座の修了者，または同程度の者を対象にして，油彩による，より幅広い表現力を修得す

るための技法を学習した。

(6) 版画入門講座

期　日　昭和59年８月４日・５日・６日・７日・９日・10日
講　師　国画会会員　平野正房氏
参加者数　20名
内　容　銅版画の制作を通して，材料や用具，エッチング，ドライポイントなどの各技法，刷りの方法等，基基礎的な内容を学習した。

(7) 彫塑入門講座

期　日　昭和59年10月27日・28日，11月３日・４日・９日・10日・11日
講　師　新制作協会会員　青木三四郎氏
参加者数　20名
内　容　小動物をモチーフにして，粘土による肉付けや石膏取りの方法等，彫塑の基礎的な内容を学習した。

(8) 陶芸入門講座

期　日　昭和59年６月17日・18日・19日・20日・27日，７月６日
講　師　県美術会会員　明石　昇氏
参加者数　30名
内　容　コーヒーカップ，まっ茶茶わん，花びん等の制作を通して，釉薬などの材料や，ひもづくり，板づくりなど，陶芸の基礎的な技法について学習した。

(9) 陶芸研修講座

期　日　昭和59年９月４日・５日・20日，10月２日，３日・20日
講　師　日本工芸会会員　上瀧勝治氏
参加者数　30名
内　容　陶芸入門講座を修了したもの，または同程度のものを対象にして，花びん等を制作し，ロクロの基礎的な技法についても学習した。

(10) 七宝焼入門講座

期　日　昭和59年９月29日・30日
講　師　千葉大学教授　長南光男氏
参加者数　30名
内　容　ペン皿，ブローチ，ペンダント等，身のまわりの装飾品の制作を通して，七宝焼の材料や基礎的な技法について学習した。

(11) 書芸入門講座

期　日　昭和59年10月23日・24日・30日・31日，11月６日・７日
講　師　県美術会常任理事　福田襄州氏
参加者数　30名
内　容　書の歴史や，漢字，かなの楷書，行書などの練習を通して，書の基礎的な学習をした。

(12) 書芸研修講座

期　日　第１期　昭和59年７月13日・14日
　　第２期　昭和60年２月19日・20日
講師師　第１期・第２期とも
　　県美術会常任理事　浅見錦龍氏
参加者数　各期25名
内　容　書芸入門講座を修了したもの，または同程度のものを対象にして，主に条幅の書き方を中心に，入

門講座よりやや高い内容を学習した。

⑬ てん刻入門講座

期　日　第１期　昭和59年８月25・26日
　　第２期　昭和59年12月８日・９日
講　師　第１期・第２期とも
　　県美術会会員　霊園鴻甫氏
参加者数　各期30名
内　容　　自分の名前を印材に刻する制作を通して，印刀などの用具や材料の使い方，また，印稿，布字，運刀，押印等の技法について基礎的な学習をした。

日本画研修講座

洋画研修講座

版画入門講座

美術を語る会

美術普及事業の一環として，特別展，企画展に合わせ，定期的に「美術を語る会」を開催し，作家や作品について理解を深めた。

第１回　昭和59年５月12日
話題提供者　佐倉市史編纂委員　青柳嘉忠氏
テ　ー　マ　佐倉藩と都鳥家

企画展「都鳥英喜展」に伴い，都鳥英喜と佐倉市とのかかわりについて語り合った。都鳥は明治６年（1873）佐倉市に生まれ，浅井忠の従弟にあたる。その影響で都鳥は洋画を志す。青柳氏は特に当時の佐倉の様子や都鳥家と佐倉とのかかわりについて話題提供された。そのあと，本館の前川学芸員が都鳥芸術の特色や見方などについて解説した。

第２回　昭和59年６月19日
話題提供者　カナダ・アルバータ州の作家他
テ　ー　マ　日本の美・カナダの美

企画展「カナダ・アルバータ州現代美術展」に伴い来日したカナダ・アルバータ州の作家たちと語り合った。スライドによって，今回展示されなかった作品も含めて，作家ひとりひとりが自分の作品について解説したが，参加者たちからも質問や意見が活発に出され，カナダ芸術について理解を深めることができた。

第３回　昭和59年９月29日
話題提供者　早稲田大学講師　丹尾安典氏
テ　ー　マ　日本人とバルビゾン派

特別展「ミレー，コロー，クールベ展」に伴い，ミレーを中心としたバルビゾン派の作家たちの作品に焦点を当てて話題提供され，特に，何故バルビゾン派の作家の作品が日本で好まれるのか，また，アメリカで人気のあることとの共通点等について多くのスライドによってわかりやすく話された。

第４回　昭和60年２月９日
話題提供者　茂原市文化財審議委員
テ　ー　マ　御舟と茂原　　佐藤信夫氏

特別展「速水御舟とその時代」に伴い，御舟と茂原とのかかわりについて語り合った。父が茂原市の出身ということで，御舟自身もしばしば茂原附近を訪れ，何点かの作品も残しているが，現在ではその数や存在も余りはっきりしない部分が多い。そんな中で，父の実家がこれまで庄屋とされていたのが醤油屋と判明したことなど語られた。

第５回　昭和60年２月23日
話題提供者　彫刻家　鈴木　徹氏
テ　ー　マ　彫刻と私

企画展「第１回現代日本具象彫刻展」に伴い，今回大賞を受賞された作家のひとりである鈴木氏より，これまでの作家活動を通して，制作に対する考えや現代彫刻について話題提供された。特に氏は，彫刻家になったいきさつや，ヨーロッパへ渡って数多くの彫刻に出会い，その時に受けた感動は今でも強烈に印象に残っており，そのような作品を創りたいと思っていると話された。

第４回

第５回

第8回 美術館夏季大学

千葉県立美術館では「みる・かたる・つくる」活動の一環として，美術に親しみながら美術に関する知識や理解を深めるとともに，その魅力に触れることのできる美術館夏季大学を開催してきた。

本年は，比較的語られることの少なかった版画の魅力と，500万県民記念彫像設置構想に因み，具象彫刻に焦点をあてた。

期　　日　昭和59年7月27日・28日
参加者　120名

日	時	講　師	課　題	内　　容	日	時	講　師	課　題	内　　容
7月27日	午前	大沢　実（浮世絵史研究家）	英泉を中心とする後期浮世絵と近代美術	1.溪斎英泉の出目 2.絵本の芸術性 —黄表紙と合巻について 3.後期浮世絵の特徴 4.後期浮世絵と近代美術	7月28日	午前	大須賀力（彫刻家）	彫刻と私	1.帝展のころ 2.師友のことども 3.裸婦について 4.作品解説
	午後	遠藤健郎（洋画家）	版画について	1.私と版画 2.近ごろの版画の流行について 3.現代における版画の意味 4.版画の魅力		午後	戸田禎佑（東京大学教授）	絵画と彫刻	1.中国における彫刻の位置 2.宋代における彫刻と絵画 3.元代における彫刻と絵画

見　学　会

友の会と共催で行い，美術作品や文化財を訪ねながら同好の親睦を深めた。

房総の海と歴史と花を訪ねて

期　　日　昭和59年６月22日
参加者数　37名

今回の美術鑑賞の旅は，県立安房博物館と館山市立博物館を訪ねた。当日は梅雨期特有のはっきりしない空模様であったが，最初の見学場所の県立安房博物館では，いろいろな〝漁民の生活〟を見学し，つづいて，小高い丘の中腹，彫刻の道を通っての館山市立博物館では，〝房州人の歴史とくらし〟を見学した。最後は白浜のフラワーパークで色とりどりに咲き乱れる花園でひとときを過ごした。

いわきの秋に美を訪ねて

期　　日　昭和59年10月14日・15日
参加者数　35名

秋のいわき路を行く２日間の旅の第１日はいわき市立美術館を訪ねた。日本内外の現代美術を展示した常設展と，特別展はややなじみは薄いが中国の庶民の芸術である年画展を見学した。２日目のいわき近代美術館（中村正義記念館）は，異端の天才画家，日本のゴッホともいわれた夭折の画家中村正義の作品を集めて展示されている。二つの美術館もさることながら，途中バスの窓から見える風景は秋の陽ざしを受けて美しかった。

みる・かたる・つくる

千葉県立美術館報の発行

B５　各 3,000部

VOL. 11　No. 1（59．5．1発行　6頁）

目次
- ●房総の美術家シリーズ―14―　都鳥英喜展
- ●常設収蔵作品展
- ●千葉県立美術館を去るにあたって
- ●新収蔵作品紹介
- ●昭和59年度事業案内
- ●ごあんない
- ●日誌抄
- ●職員異動

VOL. 11　No. 2（59．9．1発行　6頁）

目次
- ●観潮台
- ●特集「県立美術館の10年とこれから」
- ●「―自然との交流―ミレー，コロー，クールベ展」
- ●「都鳥英喜展」「カナダ・アルバータ州現代美術展」終る
- ●第１回現代日本具象彫刻展募集始まる
- ●実技講座の案内
- ●日誌抄

VOL. 11　No. 3（60．1．25発行　6頁）

目次
- ●観潮台
- ●速水御舟とその時代展　―プロローグ　生家・蒔田家と茂原―
- ●第１回現代日本具象彫刻展
- ●ミレー，コロー，クールベ展終る
- ●感謝のことば
- ●実技講座を受講して
- ●美術館協議会・美術館研究員会議
- ●日誌抄

友の会（葉美会）

(1) 運営方針

① みる・かたる・つくる美術活動に積極的な参加促進をはかる。

② 会員加入の促進と県民アトリエ事業への積極的な参加。

③ 組織の拡充と活動の充実をはかる。

(2) 組　織

人数　会員数　788名

名称　千葉県立美術館友の会

●千葉県立美術館友の会役員

職名	氏名	分担
顧問	始関妙	
名誉会員	松戸節三	
〃	市原正夫	
〃	高橋在久	
会長	鈴木民三	
副会長	江尻幹雄	親睦
〃	平野馨	
〃	新城瑠璃	
事務局	足立堯	
監事	小室守一	事業
〃	三宅寿美子	事業
〃	林康高	
理事	安田博亮	
〃	中島るり子	
〃	押尾禎一	○広報
〃	平野元三郎	親睦
〃	大藤敬美	○親睦
〃	石井秀雄	広報
〃	青木了	○事業
〃	中村幸子	親睦
〃	大里功	総務
〃	松本衛	
〃	長倉忠勝	
〃	鈴木豊志夫	
〃	野沢弘子	
〃	実藤充子	
〃	糸賀茂夫	
〃	中村哲	
〃	加曽利和夫	
評議員	大高鐘蔵	
〃	木内俊雄	
評議員	安達園子	
〃	横沢正雄	
〃	高橋喜一郎	
〃	芳垣良一郎	
〃	加藤信子	
〃	西田葆	
〃	藍野正和	
〃	植木照	
〃	広瀬慶子	
〃	長谷川芳衛	
〃	渡辺美智子	
〃	米倉澄夫	
〃	林美貴枝	
〃	日暮幸子	
〃	酒井千代子	
〃	近藤愛子	
〃	佐藤裕子	
〃	今井忠昭	
〃	今井博	
〃	日色義忠	
〃	落合芳枝	
〃	須藤瑛子	

○印　代表者

(3) 事　業

① 友の会だより“しおさい”の刊行，県民アトリエの各種実技講座への積極的な参加，美術鑑賞の旅，講演会，ボランティア解説会などを本館と共催及び後援で行った。

② 第9回葉美会展

会　期　昭和60年1月11日～1月20日

展示点数　77点

葉美会展は，昭和51年10月に「友の会作品展」として，実技講座の作品を主としてはじめられた。葉美会という呼名は千葉県立美術館友の会の略称であることから，第3回より葉美会展と称した。友の会会員であれば，だれでも参加でき，会員がお互いの作品を鑑賞しながら語り合うことにより，創作の楽しみを分かち合う機会とした。なお，最終日には，千葉大学教授武内和夫氏より指導講評が行われた。

友の会だより

「しおさい」――B５　各 1,300部

No.43（59．５．25発行）

目次　●文化工作者としての30余年
　　県立美術館を去るにあたって
　●文化重視の時代に
　　―県立美術館に勤務して―
　●浅井忠記念賞展あれこれ
　●「天女の舞」
　●南房に美を訪ねる
　●展覧会あんない
　●千葉県立美術館友の会会則

No.44（59．８．15発行）

目次　●房総の海と歴史と花を訪ねて
　●古樹巡礼
　●池の春――若木山のこと
　●秋の美術鑑賞の旅ご案内
　●実技講座のお知らせ
　●展覧会あんない

No.45（59.11.15発行）

目次　●いわきの秋に美を訪ねて
　●美術鑑賞の旅に参加して
　●光陰矢の如し
　●第９回葉美会展に出品を
　●展覧会あんない

No.46（60．１．15発行）

目次　●あけましておめでとうございます。
　●第９回葉美会展
　●国鉄マンの自伝
　●二つの美術館を訪ねて
　●展覧会あんない
　●特別展「速水御舟とその時代」

No.47（60．３．15発行）

目次　●第９回葉美会展開く
　●葉美会展作品批評
　●しおさい刊行10年をかえりみて
　●展覧会あんない
　●60年度友の会会員募集

昭和59年度事業一覧

月	み る		かたる・つくる
4	4.1 **常設収蔵作品展**		
	第10回武蔵野美術大学校友会千葉県支部展	(4/10～4/15)	
	第21回全日本書の友会総合書道大展覧会	(4/17～4/22)	
	第11回千葉新協展	(4/24～5/6)	
5	4.27 **房総の美術家シリーズ⑭　都鳥英喜展**		
	第10回歩会彫刻展	(5/2～5/13)	
	千葉等迦展	(5/8～5/13)	
	第４回千葉美術工芸展	(5/8～5/20)	美術を語る会(1)　(5/12)
	第15回表美展	(5/15～5/20)	
	千葉市アマチュア美術展覧会	(5/15～5/20)	
	5.20 第29回二科千葉支部展	(5/22～5/27)	
	二紀会千葉県支部展	(5/22～5/27)	
	第７回一陽会千葉展	(5/29～6/3)	
6	第11回千虹会日本画展	(5/29～6/3)	洋画入門(1)　(6月～7月)
	第５回千葉全展(絵画展覧会)	(6/5～6/10)	洋画研修(1)　(6月～7月)
	第10回纂展	(6/5～6/10)	日本画入門　(6月～7月)
	第８回墨の県展	(6/12～6/17)	陶芸入門　(6月～7月)
	日本画秀峰会展	(6/12～6/24)	美術を語る会(2)　(6/19)
	6.19 **カナダ・アルバータ州現代美術展**		
	千葉県書道協会展	(6/19～6/24)	
	第17回千葉県高校合同写真展	(6/19～6/24)	
7	第７回精鋭展	(6/26～7/8)	
	第２回〈明日を拓く〉教育美術展	(7/3～7/8)	書芸研修(1)　(７月)
	7.8 第５回青枢千葉展＆国際扇面展	(7/10～7/15)	デッサン入門(1)　(７月)
	第16回千葉市水墨画同好会連合会展	(7/17～7/29)	美術館夏季大学
	中央美術協会千葉支部展	(7/31～8/5)	(7/27～7/28)
	第54回習美会初夏展	(7/31～8/5)	
	第４回日本春秋書院千葉県書道連盟展	(7/31～8/5)	
8	第13回写真千葉県展	(8/7～8/19)	
	第４回千葉サンケイ現代洋画展	(8/7～8/19)	版画入門　(８月)
	第９回子供と教師の作品展	(8/21～8/26)	デッサン入門(2)　(８月)
	第12回千葉市教職員美術展	(8/21～8/26)	洋画研修(2)　(8月～9月)
	第８回尽墨会書作展	(8/21～8/26)	てん刻入門(1)　(８月)
	第14回いてふ会彫刻展	(8/21～9/2)	
	静雅書道会小中学部千葉地区展	(8/28～9/2)	
	8.26 第５回龍峡書道会千葉県人展	(8/28～9/2)	
	刻字千葉展	(8/28～9/2)	
9	9.1 **特別展「ミレー、コロー、クールベ展」**		
	第24回白扇書道会展覧会	(9/4～9/9)	陶芸研修　(9月～10月)
	第16回ファンシー洋画展	(9/11～9/16)	洋画入門(2)　(9月～10月)
	第11回文化書道千葉県連合会公募展覧会	(9/11～9/16)	
	第14回新構造千葉支部展	(9/11～9/16)	美術講演会　(9/16)
	9.12 **第８回千葉県移動美術館**（佐原市中央公民館）		
	千葉84展	(9/18～9/24)	
	第34回千葉デザイン展	(9/26～9/30)	
	第31回千葉県勤労者美術展	(9/26～9/30)	
	二科会写真部第４回千葉支部写真展	(9/26～9/30)	美術を語る会(3)　(9/29)
	9.30 第22回新世紀美術協会千葉支部展	(9/26～9/30)	七宝焼入門　(９月)

太字は本館の企画展

月	み る	かたる・つくる
10	第27回千葉市小中養護学校児童生徒作品総合展覧会 (10/2～10/10)	書芸入門（10月～11月）
	10.3 **第８回千葉県移動美術館**（富里中央公民館）	彫塑入門（10月～11月）
	10.10 第36回千葉県美術展覧会 (10/20～11/11)	
	10.21 千葉県高等学校総合芸術祭美術・工芸・書道作品展 (11/14～11/25)	日本画研修 (11月～12月)
11	千葉県芸術祭第７回千葉県写真展 (11/14～11/25)	デッサン入門(3)（11月）
	第29回こども県展 (11/27～12/9)	洋画研修(3) (11月～12月)
	11.30 **常設収蔵作品展**	てん刻入門(2) (12月)
12	第７回千葉展 (12/11～12/23)	
	12.25	
1	第21回登龍社・宮坂会書初展 (1/5～1/10)	
	1.5 秋耕会千葉支部展 (1/5～1/10)	
	第14回千葉県大学美術連盟展 (1/5～1/10)	
	第９回葉美会展覧会 (1/11～1/20)	
	「・・はれ」展 (1/11～1/20)	
	1.13	
	1.19 **特別展「速水御舟とその周辺」**	
	第２回明るい社会づくりポスターコンクール展示会	
	日本・中国友好書道展覧会（1/22～1/27） (1/22～1/27)	美術講演会 (1/27)
	第２回千葉県医師会美術展 (1/22～1/27)	
	現代書道50人展・現代書壇代表名作展・千葉書壇秀抜展・千葉書壇新進展 (1/29～2/3)	
	第１回現代日本具象彫刻展	デッサン入門(4)（２月）
	2.2 千葉大学教育学部美術科卒業制作展 (2/5～2/11)	美術を語る会(4) (2/9)
		書芸研修(2) (2月)
	第19回千葉大学学生書道展 (2/5～2/11)	
	第37回千葉県小中高校書初展覧会 (2/5～2/11)	
	群鷗書人展 (2/13～2/17)	
	幕張北高校書道コース卒業制作展 (2/13～2/17)	
2	第10回千葉県民写真展 (2/13～2/24)	
	第８回唱和会書展 (2/19～2/24)	
	和洋女子大学国文学科書道卒業作品雁鴻会展 (2/19～2/24)	
	弥生展 (2/26～3/3)	
	2.24 子ども造形展 (2/26～3/3)	美術を語る会(5)（2/23）
	親子絵画展 (2/26～3/3)	
	2.27	
3	第16回昭和59年度千葉市民美術展覧会 (3/5～3/24)	
	3.7 **常設収蔵作品展**	
	第32回書星教育部展 (3/26～3/31)	
	3.31	

利用状況

昭和59年度入館者一覧

種別／月	開館日数	個人			団体						人数合計	備考
					一般成人		大・高生		中・小生			
		一般成人	大・高生	中・小生	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数		
4	25	4,680	170	1,114	60	1	133	2	465	5	6,622	
5	26	9,086	338	2,462	83	3	0	0	709	5	12 678	
6	26	7,814	519	1,161	472	14	0	0	56	1	10,022	
7	26	6,228	216	1,423	220	7	23	1	0	0	8,110	
8	27	7,547	380	2,273	47	2	0	0	26	1	10,273	
9	26	25,309	1,484	4,152	669	21	78	2	542	3	32,234	特別展 ミレー，コロー，クールベ展
10	18	18,501	1,419	12,358	740	17	20	1	3,727	24	36,165	
11	25	16,218	2,097	3,458	481	15	1,039	5	1,161	8	24,454	
12	21	6,963	167	5,666	305	12	24	1	49	1	13,174	
1	23	8,708	1,005	809	23	1	0	0	353	2	10,898	特別展 速水御舟とその時代
2	24	11,927	659	2,593	208	7	120	2	425	4	15,932	
3	27	8,927	444	2,928	185	7	0	0	397	7	12,881	
計	294	131,908	8,898	40,397	3,493	107	1,437	14	7,910	61	194,043	

開館以来　総開館日数 3,008日　総入館者数 1,548,348人

地域別入館者状況

種別／月	開館日数	県内		県外		その他
		千葉市（人）	その他の県内(人)	東京都（人）	その他の県外(人)	外国(人)
4	25	3,532	2,741	185	160	4
5	26	6,933	5,145	315	249	27
6	26	4,768	4,831	217	185	21
7	26	4,435	3,323	212	125	15
8	27	5,571	4,321	217	148	16
9	26	19,019	12,108	628	477	2
10	18	25,069	10,684	597	415	0
11	25	15,011	9,151	201	90	1
12	21	5,208	7,704	215	40	7
1	23	6,069	4,407	366	52	4
2	24	10,038	5,462	343	89	0
3	27	8 987	3,452	195	209	38
計	294	114,640	73,338	3,691	2,239	135
累計	3,008	187,978		5,930		135

日誌抄

4月2日　辞令交付，離着任式
　23　美術館友の会役員会
　27　企画展「都鳥英喜展」始まる（5月20日まで）

5月12日　第1回美術を語る会
　25　タイ国ペンクラブ会長ニラワン女史来館

6月7日　関東地区県立博物館等副館長会議
　19　カナダ・アルバータ州現代美術展始まる（7月8日まで）
　19　第2回美術を語る会
　22　友の会美術鑑賞の旅（県立安房博物館，館山市立博物館他）

7月9日　第1回美術館協議会
　23　博物館実習始まる（18名，7月28日まで）
　27　美術館夏季大学（28日まで）

8月7日　第2回現代日本具象彫刻展実行委員会
　18　鈴木文化庁長官来館

9月1日　特別展「ミレー，コロー，クールベ展」始まる（10月10日まで）
　12　千葉県移動美術館（佐原市中央公民館―9月30日まで）
　16　美術講演会　講師・島田紀夫氏
　25　第2回美術館協議会
　29　第3回美術を語る会

10月2日　関東博物館協会研究会
　3　千葉県移動美術館（富里中央公民館―10月21日まで）
　7　常陸宮同妃両殿下御成り

11月28日　美術館研究員会議

12月7日　第1回現代日本具象彫刻展公募作品搬入（9日まで）
　10　同審査
　12　展示室利用調整会議
　20　第3回美術館協議会

1月19日　特別展「速水御舟とその時代」始まる（2月27日まで）
　19　美術館友の会役員会
　27　美術講演会　講師・細野正信氏

2月2日　「第1回現代日本具象彫刻展」始まる（2月24日まで）
　同展受賞式
　9　第4回美術を語る会
　21　第4回美術館協議会
　23　第5回美術を語る会
　25　第3回現代日本具象彫刻展実行委員会

3月25日　美術館研究員会議

作品貸出一覧

作家名	作品名	出陳展覧会名	会期	貸出先
吉岡堅二	濤	展覧会「井上靖・美しきものとの出会い」	59.1.19～31　他3ヶ所	毎日新聞社
香取正彦	朧銀玉錯花瓶	「伝統工芸30年の歩み」展	59.3.10～4.15　他2ヶ所	朝日新聞社
後藤純男	山門雨後	「後藤純男」展	59.5.31～6.12　他3ヶ所	読売新聞社
岩崎巴人	波涛岩礁図	―日本のフォーブ野の僧―「岩崎巴人展」	59.6.16～7.1	高岡市立美術館
〃	海流の中に立つ裸女			
〃	風の中の釈迦			
渡辺学	夜明け	開館記念展「人間像にみる現代絵画の展望」	59.7.13～8.31	福島県立美術館
中西利雄	トリエール・シュール・セーヌ	「中西利雄展」	59.8.31～9.24　他2ヶ所	梅田近代美術館
〃	南仏風景			
〃	外房風景			
〃	人物			

作家名	作品名	出陳展覧会名	会期	貸出先
中西利雄	四人の女			
〃	曇り日の離宮と駅			
浅井忠	虢子窩第二軍司令部	第9回特別企画展	59.10.1～11.18	松山市立子規記念博物館
〃	金州城外之図	「子規をめぐる画人たち		
〃	猿蟹合戦図茶器	―浅井忠・中村不折―」		
〃	農家風俗手塩皿			
〃	お福の像			
	他51点			
松岡寿	森と小川	開館二周年記念展	59.10.10～11.25	岐阜県美術館
石井柏亭	病児	「日本洋画のあけぼの－明治美術会と白馬会－」		
都鳥英喜	男の顔			
宮崎丈二	裸婦	特別展 「銚子の生んだ詩人 宮崎丈二」	59.9.26～11.9	銚子市青少年文化会館
〃	自画像			
〃	猫（チイコ）			
〃	江古田風景			
	他7点			
吉岡堅二	涛	「新文展回顧展」	59.10.5～10.17	読売新聞社
鶴田吾郎	蒙古の女			
梅原龍三郎	皇居	「梅原龍三郎展」	59.10.5～10.31	西部美術館・朝日新聞社
コロー	フォンテンブローの風景	「近代フランス絵画の巨匠たち」展	59.10.6～28 他1ヶ所	北日本新聞社
クールベ	雪の中の小鹿	―バルビゾン派から後期印象派まで―		
浅井忠	沢入駅	「近代洋画の先駆者 浅井忠展」	59.10.25～11.23	致道博物館
〃	金州城南門外	（本館所蔵品による特別展）		
〃	金州城壁上			
〃	農婦			
〃	京都高等工芸学校の庭			
〃	老母像			
〃	婦人像			
	他32点			
香取秀真	鳩香炉	「房総の生んだ金工家達」	59.11.3～25	佐倉市教育委員会
〃	霊獣文大花瓶			
〃	他6点			
津田信夫	一點玲瓏			
〃	風翔薫炉			
〃	他3点			
香取正彦	金銅魚藍観音			
〃	瓏銀玉錯花瓶			
信田洋	黄銅花いらず			
〃	透壺			
〃	他3点			
関主税	滝	「郷土ゆかりの書画展」	59.11.1～30	長南町郷土資料館
鳴川誠一	あもりのあんず			
〃	花			
石井柏亭	晩春行楽図	水彩の美 第2期展「近代日本の水彩画展」	59.10.23～11.30	東広島市立美術館
〃	舞姫			
加藤源之助	秋の山（大和初瀬村）			
小堀進	風の日の海辺			
〃	ロンドンの朝			
田中善之助	聖護院の裏			
中林儔	山中湖附近			
長谷川良雄	晩秋			
三橋兄弟治	トレド早春			
白滝幾之助	エジプト			
〃	伊国ナポリ			
不破章	白い砂			
浅井忠	藁屋根	「日本の四季」名作展	60.1.10～1.22	読売新聞社
後藤純男	山門雨後			
米林雄一	CIRCLE AND TRIANGLE	「現代彫刻の歩み－木の造形」	60.1.31～2.24	神奈川県立県民ホール

関係法令等

1．博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

（目　的）

第1条　この規則は，教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第2条　館の開館時間は，午前9時から午後4時30分までとする。

2．館の長（以下「館長」という。）は，必要があると認めるときは，前項の規定にかかわらず，開館時間を変更することができる。

（休館日）

第3条　館の休館日は，次のとおりとする。

一　定期休館日　月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する日に当たるときは，その翌日）

二　国民の祝日に関する法律に規定する休日

三　年始休館日　1月1日から1月4日まで

四　年末休館日　12月26日から12月31日まで

五　臨時休館日　特別の事情により，館長が休館を必要と認めた日

2．前項の休館日であっても，館長が特に必要と認めた場合は，館の全部又は一部を開館することがある。

（入館の制限）

第4条　館長は，次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ，又は退館を命ずることができる。

一　特別展覧会を観覧しようとする者で，所定の観覧券を所持しないもの

二　適当な指導者，保護者又は付添人のない6歳に満たない者

三　でい酔者，伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

（観覧券等）

第5条　館の特別展覧会観覧券は，別記第1号様式とする。

2．団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは，あらかじめ団体観覧申込書（別記第2号様式）により，館長に申し込まなければならない。

（禁止行為）

第6条　入館者は，次に掲げる行為をしてはならない。

一　展示品に手をふれること及び展示室でインク，墨汁類を使用すること

二　許可なくして展示品を模写し，又は撮影すること。

三　所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食すること。

四　その他他の入館者の妨げになるような行為をすること。

（損害の賠償）

第7条　館長は，入館者が館の展示品，建物若しくは備品等をき損し，又は汚損したときは，現品又は相当の代価をもって弁償させることがある。

（委　任）

第8条　この規則の施行に関し必要な事項は，教育長の承認を得て，館長が定める。

附　則

この規則は，昭和46年1月15日から施行する。

別記様式（省略）

2．使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年3月31日条例第6号

（趣　旨）

第1条　県が徴収する使用料及び手数料（以下「使用料等」という。）に関しては，別に規定するもののほか，この条例の定めるところによる。

（使用料等の徴収）

第2条　県が所有し，又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等」という。）の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し，法令及び他の条例に規定するもののほか，当該財産等を使用しようとする者から使用料を，当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

（種類及び額）

第3条　前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は，別表第一に掲げるとおりとする。

（中　略）

別表第一抜粋

財産又は事務の種類	手数料	区　分	単　位	額
博　物　館	入館料	特　別 展　覧　会	1人1回 につき	500円 以内

（徴収の特例）

第8条の2　県民の日を定める条例（昭和59年千葉県条例第3号）に規定する県民の日その他規則で定める場合において，県の設置した公の施設で，規則で定めるものに係る使用料については，第2条及び第3条の規定にかかわらず，これを徴収しない。

（以下省略）

使用料及び手数料規則（抜粋）

昭和31年千葉県規則第29号

第７条の２　（省　略）

別表第六（抜粋）

行　　事　　等	施　設
県民の日（６月15日）。 65歳以上の者，身体障害者（介護者を含む。）又は精神薄弱者が使用する場合。	博物館

３．展示室使用料

昭和56年４月１日千葉県教育委員会教育長指令第116号

１．千葉県立美術館展示室等の使用料については，使用料及び手数料条例第５条第３項に基づき減免することとし，当分の間次表のとおりの額とする。

区分	室名	面積	使用料（午前９時から午後５時まで）	
			観覧料無料，物品を販売しない場合（減免率3分の2）	観覧料有料又は物品を販売する場合（減免率3分の1）
展示棟	第一展示室	438㎡	5,500円	11,000円
	第二展示室	400㎡	5,000円	10,000円
	第三展示室	469㎡	6,000円	12,000円
	第四展示室	403㎡	5,500円	11,000円
	第五展示室	824㎡	11,000円	22,000円
	第六展示室	330㎡	4,500円	9,000円
	第七展示室	567㎡	7,500円	15,000円
	全展示室	3,431㎡	43,000円	86,000円
県民アトリエ棟	講堂	259㎡	4,500円	9,000円
	研修室	75㎡	1,500円	3,000円

ただし，県及び県教育委員会が共催する場合並びに国又は他の地方公共団体の主催ないし共催する行事に係る使用の場合は無料とし，県教育委員会が特に教育的，文化的意義を認め後援する行事に係る使用の場合は上記の半額とする。

２．千葉県立美術館展示室等の使用の許可に関する取扱いは，別紙「千葉県立美術館展示室等の使用許可に関する取扱要綱」によるものとする。

●千葉県立美術館友の会会則

（名　称）

第１条　本会は，千葉県立美術館友の会という。（略称，葉美会）

（事務所）

第２条　本会は，事務局を千葉県立美術館内におく。

（目　的）

第３条　本会は，千葉県立美術館（以下（館」という。）の活動に協力し，楽しいふんい気のなかで，教養を豊かにし，美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深めることを目的とする。

（事　業）

第４条　本会は，前条の目的を達成するため次の事業をおこなう。

１　館の展覧会の見学鑑賞　２　講演会，講習会，研究会等
３　館外見学会　４　機関紙等の編集刊行
５　その他目的達成に必要な事業

（会　員）

第５条　本会は，会の目的に賛同するものをもって組織する。

１．会員には次の特典がある。
①　館の主催又は共催による展覧会観覧の優待
②　美術館報「みる・かたる・つくる」ならびに友の会機関紙の配布
③　本会発行の図録等の配布及び割引購入
④　本会事業への参加

２．本会活動に協力し，賛助会費を納めたものは賛助会員とする。

（会員の加入・退会）

第６条　本会に加入する場合は申込書に入会金（500円）を添えて事務局に提出し，会員証の交付を受ける。退会の際は退会届を提出する。

（役　員）

第７条　本会に次の役員をおく。

会長１名　副会長３名（ただし内１名は美術館長があたる）
理事若干名　事務局長１名　監事３名　評議員若干名

１．会長・副会長・理事・事務局長・監事の選出は評議員会において推挙する。

２．役員の任期は２年とする。ただし再任は防げない。

（役員等の任務）

第８条）　本会の役員の任務は次のとおりとする。

１．会長は本会を代表して会務を総理し，会議を召集し，その議長となる。

２．副会長は会長を補佐し，会長事故あるときはこれを代理する。

３．理事は会の運営にあたる。

４．事務局長は会務を処理する。

５．監事は本会会計の監査をする。

（顧問・名誉会員）

第９条　この会に顧問及び名誉会員をおくことができる。名誉会員は評議員会で推挙する。

（支　部）

第10条　地域，並びに職域ごとに20名以上の会員を有する場合は支部をおく。

（評議員会）

第11条　各支部より20名につき１名の制で推せんされた代表と賛助会員及び講座代表をもって評議員会を構成する。評議員会は毎年１回以上開き，事業計画，予算，役員の決定その他の重要方針を決議する。

（会　費）

第12条　本会の会費は次の通りとし，毎年度当初に納入する。

１．普通会員　年額 1,500円
２．賛助会員　１口につき年額10,000円

（経　費）

第13条　本会の経費は会費，寄附金，事業収益金，その他の収入をもってあてる。

（会計年度）

第14条　本会の会計年度は毎年４月１日にはじまり，翌年３月31日におわる。

（職　員）

第15条　本会の事務職員は館に勤務する者以外から，会長が委嘱する。

（付　則）

１．本会の会則は評議員会で出席者の過半数の同意を得なければ変更することができない。

２．本会則は昭和50年６月28日より施行する。

●昭和51年５月29日一部改正　●昭和52年４月21日一部改正
●昭和53年４月22日一部改正　●昭和54年４月28日一部改正
●昭和56年４月28日一部改正　●昭和59年４月23日一部改正

昭和60年度展覧会事業計画

常設展

常　設　収蔵作品展

会期　4月2日(火)～8月18日(日)
　　9月21日(土)～10月13日(日)
　　12月13日(金)～3月30日(日)

内容　日本画，洋画，彫塑，工芸，書，版画の各分野から，本館収蔵作品を順次展示する。本年度は三期に分けて開催する。

特別展

ゴヤ連作全版画展

会期　5月17日(金)～6月16日(日)

内容　ゴヤ（1746～1828）の芸術は，フランス革命のさなかに生きた革命の芸術とよばれ，時代の苦難をよく反映している。

　本展は彼の銅版画による四大シリーズ―気まぐれ，戦争の惨禍，闘牛技，妄―の作品を展覧する。

フランス名画展

会期　8月23日(金)～9月16日(月)

内容　18世紀のロココから20世紀前半のエコール・ド・パリまでのフランス絵画の流れをたどりながら，フラゴナール，ミレー，セザンヌ，マチス，ピカソ，シャガールら代表的な50余作家の油彩，パステル，版画等を展覧する。

企画展

〝房総の美術家シリーズ〟
今関啓司展

会期　9月19日(木)～10月13日(日)

内容　今関啓司（1893～1946）は，長生郡庁南町（現長南町）長南に生まれ，主に春陽会で活躍した。

　本展では，彼の生涯にわたる作品を一堂に集め展覧する。

第9回千葉県移動美術館

会期　9月11日(水)～9月23日(月)
　　（八千代市文化センター・ホール）
　　9月26日(木)～10月15日(火)
　　（君津市役所5階大ホール）

内容　本館収蔵作品の鑑賞の機会を広く県民に拡大するとともに，本館を紹介し，地域文化の振興に寄与するため，県内2か所の会場で美術展覧会を行う。

昭和60年度職員

館長	平野馨
副館長	糸賀茂夫
庶務課	
主査	林康高
主任主事	菅井冨美子
〃	一杉徹
主任技師	岩瀬隆司
主任運転手	篠原恒雄
主任用務員	長島則子
学芸課	
学芸課長	中村哲
主査	中地昭男
〃	鈴木喜久夫
学芸員	米田耕司
〃	藤川正司
〃	小泉幸代
〃	相川順子
副主査	高村照夫
学芸員	大久保守
文化財主事	田坂浩
主事	武内喜美子
学芸員	金田雅成

利　用　案　内

開館時間　午前9時より午後4時30分まで

休 館 日　・月曜日（ただし，月曜が祝日のときは開館し，翌日休館）
・年末年始（12月26日～1月4日）
・展示替等のため，必要があるとき。

入 館 料　・無料（ただし，特別展は有料）

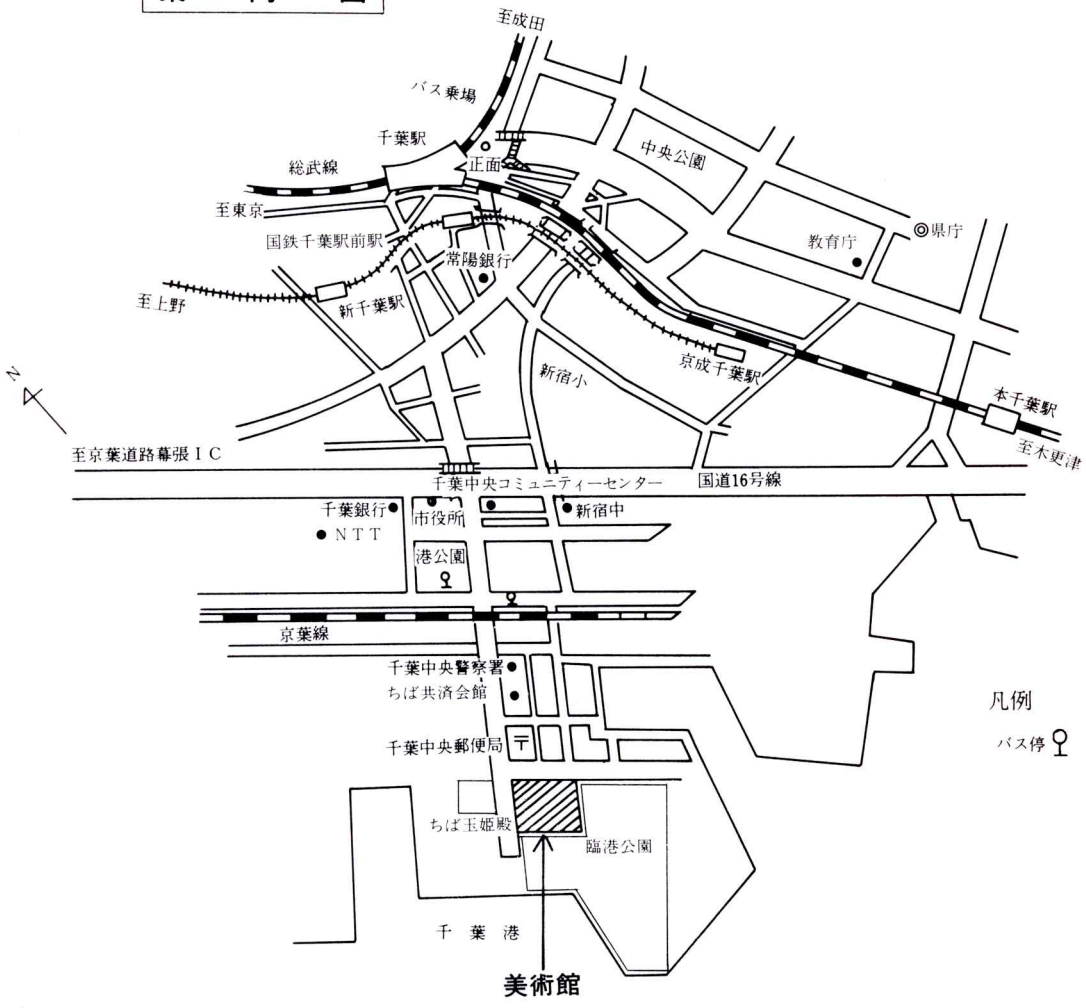
団体観覧　・団体で来館されるとき，あらかじめご連絡あれば作品等の解説をします。

交　通　案　内

国鉄千葉駅前バス停③番より「千葉市役所行」小湊，京成，中央各バスで終点下車，徒歩約10分・⑦番「新港行」小湊，京成バスで中央署前下車，徒歩約6分

※日曜・祝日に限りそごうデパート前⑨番より美術館行きバスが運行されています。

案　内　図



みる・かたる・つくる
千葉県立美術館年報（昭和59年度）
発　行　千葉県立美術館
〒260　千葉市中央港1－10－1
ＴＥＬ　0472（42）8311(代表)
印　刷　有限会社　正　文　社